鹿児島県奄美パーク

事業報告書

2018　LEAF

目　　次

第１　鹿児島県奄美パーク概要 1
第２　平成３０年度の事業実績について 2
第３　奄美の郷企画事業 3
１　季節感（年中行事）を取り入れたイベント 3
（１）第１２回奄美パークわらべシマ唄大会
（２）あまみっ子フェスタ
（３）ネリヤカナヤフェスタ
（４）サマーコンサート
（５）奄美パーク夏まつり　シマジマだより～徳之島～
（６）フユウンメコンサート
（７）奄美パーク新春寄席
（８）初春唄あしび
（９）奄美パーク春まつり～サンガツサンチ～
２　奄美の郷ライブステージ 11
（１）新民謡・奄美歌謡コンサート
（２）奄美の郷ライブステージ「龍郷町懐メロ同好会」
（３）あまみのさとしまうたライブ
（４）奄美パークパフォーマンスバトル２０１９
３　文化講演会 13
４　わきゃステージｉｎパーク事業 14
（１）第２回雪国長岡南国奄美交流茶会
（２）ｆｕｎ＋ファンタス～日常に楽しいことをプラス！！～
（３）第９弾！！島んちゅ会 でぃ・まーじんま！
（４）第５回ならびや歌謡ショー　懐かし昭和歌謡とよさこい踊り
（５）エビナマスジ×Ｎａｎａ　２マンライブ『再会の風歌』
（６）２０１８奄美 美の競演
（７）アマービレ吹奏楽団スプリングコンサート
（８）第８回ならびや歌謡ショー　春の歌謡祭
（９）第８回龍郷町キットハレ芸能祭
５　その他自主事業及び共催事業 21
（１）奄美パーク de フリマ
（２）奄美パーク展示リニューアルオープニングセレモニー
（３）奄美パークハロウィンイベント
（４）文化の日イベント
（５）第１２回奄美パーク子どもクリスマス会
（６）けんむんクイズラリー
（７）ぱーくまをさがせ！

第４　田中一村記念美術館企画事業 27
１　奄美関連作家展及び招待作家展 27
（１）対話「私が生まれたとき」奄美編
（２）国立療養所菊池恵楓園金陽会作品展「ふるさと，奄美に帰る」
（３）４コマアート：世界で今何が起こっているのか？
（４）奄美人と彝人―海の民・山の民―
（５）老いてますますＧｅｎｋｉ！荒波老娘（あらばおとめ）の手作り作品展
（６）新芸術協会作家三人展 IN 奄美
（７）第２回奄美横浜交流　遊展
２　県美展奄美関連作家展 33
３　田中一村生誕１１０年記念スケッチコンクール作品展 33
４　田中一村生誕１１０年記念　奄美を描く美術展（第１７回） 33
（１）本展
（２）巡回展
（３）入選・入賞作品
５　その他企画展 39
（１）龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展
（２）田中一村生誕１１０年記念 田中一村を魅了した奄美フォトコンテスト及び作品展
６　創作体験教室ほか 40
（１）創作体験教室　楽しい絵画教室「奄美を描こう」
（２）夏休み親子「染め・織り体験」
（３）田中一村作品鑑賞会
（４）子ども美術館バックヤードツアー＆鑑賞会
（５）創作体験教室　人物画講座
第５　田中一村記念美術館　特別企画展 44
１　第Ⅰ期　生誕１１０年　奄美への路Ⅰ　田中一村　展
（１）展示
（２）学芸員によるギャラリートーク
（３）田中一村生誕１１０年記念　長谷川祐子氏×宮崎緑館長　特別講演・対談
２　第Ⅱ期　生誕１１０年　奄美への路Ⅱ　田中一村　展
（１）展示
３　第Ⅲ期　奄美に魅せられた日本画家　田中一村　展
（１）展示
（２）田中一村生誕１１０年記念　東加奈子氏×宮崎緑館長　特別講演・対談
（３）田中一村生誕１１０年記念　長谷川祐子氏×宮崎緑館長　特別対談・講演会
第６　各種イベント・美術館企画展ポスター等 50
第７　奄美パーク応援隊 57

第１　鹿児島県奄美パーク概要

１　施設の目的

鹿児島県奄美パークは，奄美の美しい自然や多様な文化・歴史をわかりやすく紹介した総合展示ホールや奄美シアター，人々の交流の場を提供するイベント広場からなる「奄美の郷」と，奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とする奄美群島全体の新たな観光拠点施設として，奄美市笠利町節田の旧奄美空港跡地に建設された。

２　設　置　者　鹿児島県

３　開園年月日　平成１３年９月３０日

４　指定管理者　奄美群島広域事務組合

５　園長兼館長　宮崎　緑（千葉商科大学国際教養学部長，元ＮＨＫ「ＮＣ９」初の女性ニュースキャスター）

６　園 地 面 積　約７７,０００㎡

７　総 事 業 費　約７８億円

８　施設の概要

（１）　奄美の郷（延べ床面積約３,２００㎡）

白い貝殻をイメージした外観。建物内の梁などは，琉球松の大断面集成材でソテツの葉をイメージした造形。

- ○　総合展示ホール，奄美シアター（有料）
- ○　アイランドインフォメーション，イベント広場，レストラン，売店

（２）　田中一村記念美術館（延べ床面積約２,５００㎡）

奄美の海をイメージした池に３棟の高倉が浮かぶ設計。床はイタジイを使用。

- ○　常設展示室，特別展示室（有料）
- ○　企画展示室，ガイダンス室，図書資料室，喫茶・ミュージアムショップ

（３）　一村の杜（面積７,０００㎡，平成１９年７月２０日完成）

６つのスポットで構成されている遊歩道。田中一村の奄美での作品に描かれている草木を植栽。それぞれのスポットで作品に描かれている風景を鑑賞。

（４）　その他の施設

多目的広場（約３,７８０㎡），野外ステージ，展望台，駐車場（約２４０台）

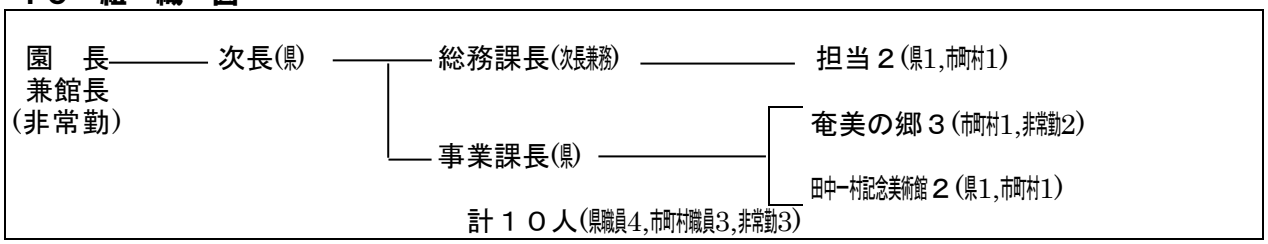
９　観 覧 料 金　共通観覧料：一般６２０円（２０人以上の団体は４９０円）
高・大学生４１０円（同３２０円）
小・中学生３１０円（同２４０円）

１０　休　園　日　毎月第１，第３水曜日（祝日の場合は翌日）
（４／２９～５／５，７／２１～８／３１，１２／３０～１／３は開園）

１１　開 園 時 間　９：００～１８：００（７月，８月は１９：００まで）

１２　入 園 者 数　平成３１年３月末現在 延べ２，３８２千人（平成３０年度入館者数１３万７千人）

１３　組　織　図



第２　平成３０年度の事業実績について

奄美パークは，世界的にも優れた奄美の自然や島唄・民俗芸能等の伝統文化，伝統産業など，奄美の魅力を国内外に情報発信する奄美群島全体の観光拠点施設として，平成１３年９月に開園しました。奄美の美しい自然や多様な文化，歴史をビジュアル的に分かりやすく紹介する「奄美の郷」と，奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家，田中一村の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とし，また，奄美群島に居住する方々の交流の場でもあります。

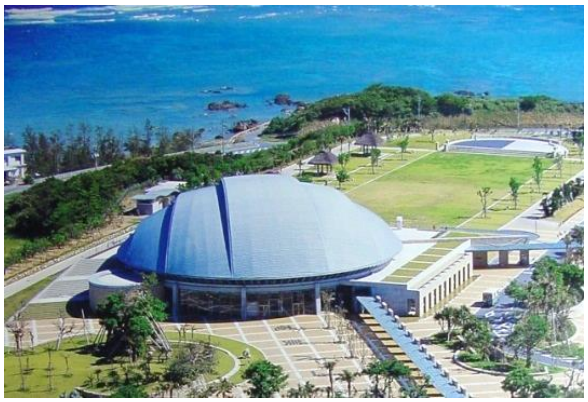
「奄美の郷」では，総合展示ホールや奄美シアター，アイランドインフォメーションで奄美を紹介し，イベント広場において島唄，伝統芸能，踊りなどで構成するイベントを開催しています。「田中一村記念美術館」では，常設展示のほか，「企画展示室」において奄美関連作家展，招待作家展，奄美を描く美術展，創作体験教室などを開催しています。

平成３０年度は，「奄美の郷」においてアイランドインフォメーションの全面リニューアルをはじめ，奄美シアターで上映する映像ソフトの追加，遊びの庭・総合展示ホールの一部リニューアルなど，開園以来となる展示物の大幅なリニューアルを行いました。また，防災と科学をミックスした「防災エンスショー」をはじめとし，例年開催している「子どもクリスマス会」，田中一村記念美術館では，田中一村生誕１１０年を記念した特別展（全３期）の開催，毎年恒例となっている「奄美を描く美術展」及びその巡回展を鹿児島市立美術館で開催するなど様々なイベントを開催し，文化芸術の振興，施設の利用促進を図ることができました。

平成３０年８月のスカイマークの就航，ＮＨＫ大河ドラマ「西郷どん」の放映の効果，奄美の郷の展示リニューアル，ＮＨＫの日曜美術館で田中一村記念美術館が取り上げられたことなどにより徐々に入館者数も増加し，平成２５年度以降６年連続して前年度と比較しプラスとなりました。入館者数は，平成１３年９月の開園以来，平成３１年３月末で約２３８万人となりました。

奄美では，来年の世界自然遺産登録を目指した取組や鹿児島国体への準備が着実に進められることなどで，今後更に交流人口の拡大が図られることが期待されています。

このような中，奄美パークでは，奄美への追い風を逃すことなく，引き続き皆様の助言やお力添えをいただき，様々な事業を展開してまいりますので，今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



奄美の郷

田中一村記念美術館

第３　奄美の郷企画事業

１　季節感（年中行事）を取り入れたイベント

（１）第１２回奄美パークわらべシマ唄大会

日時：平成３０年５月５日（土・祝）９：３０～１５：００

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約６００名

内容：　奄美の将来を担う子どもたちが，シマ唄を通じて奄美固有の伝統文化への理解を深めるとともにその技法を学び，シマ唄文化を広く後世に伝える目的で開催した。

　参加者は小学校低学年の部に１５名，小学校高学年の部に１９名，中学生の部に１９名の総勢５３名で，昨年に比べ３名少なかった。

　また，出場者の地域別としては，奄美市名瀬を中心に，奄美市笠利町，龍郷町，宇検村，喜界町，東京都など多くの地域に及んだ。

　来場者は本選出場者のシマ唄はもちろん，ゲストに招いた平成２９年度各部門の優勝者３名（千田真帆さん・朝岡歩紀花さん・原田幸歩さん）他，特別ゲストの朝岡明紀さん，飯田秋さん，成瀬茉倫さんのシマ唄にも終始楽しんでいる様子だった。

　各部門の各賞受賞者は下記のとおり

- ○　小学校低学年部門
  優勝　朝そら　準優勝　大山皇成　３位　奥　野乃佳
- ○　小学校高学年部門
  優勝　鈴木　明　準優勝　藤原梨月香　３位　徳永理咲
- ○　中学生部門
  優勝　時岡優里菜　準優勝　要田ののか　３位　鈴木侑

（２）あまみっ子フェスタ

日時：平成３０年５月６日（日）１０：３０～１５：１０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約６００名

内容：　創作体験・昔あそびは，１日を通して創作体験として奄美手熟師会がアダンの葉っぱを使ったおもちゃや，草笛体験やナリ細工などの手作り教室を行い，また，奄美市レクリエーション協会が屋外でバルーンアート，輪投げの昔あそび等を行い，それぞれに親子で楽しむ姿がみられた。

　ステージでは，午前の部として節田小学校の５，６年生によるアマンディー太鼓で始まり，最後は，大道芸人ジーニーさんの会場を巻き込むパフォーマンスで会場を盛り上げ，来場者を楽しませた。

午後の部は，伊津部小学校のさざ波バンドによる躍動感あふれるダンスと迫力のある三味線や太鼓の演奏で始まり，ダンススクールＣＯＲＥやＢ→ＭＡＴＯＮＤＳ☆Ｄａｎｃｅ　Ｓｔｕｄｉｏ（ビーメイトンズ☆ダンススタジオ）の素晴らしいダンスが行われ，最後には，午前の部でも登場した大道芸人ジーニーさんが，午前の部とはひと味違ったパフォーマンスを披露し，あまみっ子フェスタを締めくくった。

来場者のほとんどが親子連れで，ゴールデンウィーク最終日を親子で楽しめるイベントとなった。

（３）ネリヤカナヤフェスタ

開催期間：平成３０年７月１６日（月・祝）～８月３１日（金）

①オープニングイベント

日時：平成３０年７月１６日（月）１３：３０～１５：４０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約４５０名

内容：　平成３０年７月１６日(月･祝)から８月３１日(金)までの期間で開催する「ネリヤカナヤフェスタ」のオープニングイベントとして，「ネリヤカナヤフェスタ～フラダンスパーティー～」を開催した。開催にあたり，参加するフラダンス教室や団体を公募し，今年は７団体・総勢約１００名が集まった。会場には，フラガールたちの踊りを一目見ようと，フラダンスに興味のある方や出場団体の家族や知人など多くの観客が詰めかけ，ビデオや写真を撮る姿がみられた。プログラムは全部で１４番まであり，１つの団体が衣装チェンジをして２回出場するなど，観客を楽しませた。

オープニングは，「Hauoli AI Studio」が飾り，その美しい姿で見る人々を魅了した。イベントの中盤では，地元在住のバンド「Kitten Blue + miho」が，特別ゲストとして出場した。ネリヤカナヤフェスタにちなんだ夏らしい曲を披露し，会場をネリヤカナヤの世界へと誘った。ギターの音色に乗せた，女性二人の美しいコーラスに，客席はすっかり聴き入っていた。

イベントの最後を飾ったのは，瀬戸内町のフラ教室「ALOHA HULA AMAMI」であった。小学３年生から高校生までの子どもたちが元気で明るいダンスを披露し，賑やかで楽しい締めとなった。

出演者は以下のとおり。Hula-みんご，リコフラダンス教室，ロイヤルフラ仲山教室，カレイ・オ・ハウオリ・フラスタジオ奄美教室，Hauoli AI Studio，フラ教室ち一子，ALOHA HULA AMAMI，Kitten Blue＋miho。

②展示関係

期間：平成３０年７月１６日（月・祝）～８月３１日（金）

場所：アイランドインフォメーション及び奄美シアター付近

期間中の入場者数：９，７５７名

内容：　奄美の海の魅力を再認識してもらうため，平成３０年７月１６日～８月３１日の期間に「ネリヤカナヤフェスタ」を開催した。「“原生の海”～豊かな生物多様性を誇る奄美大島～」と題して，海洋生物に関する写真展を行った。

写真は，海洋生物に関するものを地元のダイビングショップ「ネイティブシー奄美」さんから御提供いただいた。

また，今回は以前好評だったアマミノクロウサギなど森の動植物に関する写真を海洋生物と併せて展示することとし，里村強志氏から提供いただき展示した。

ネイティブシー奄美のダイビングスタッフが撮影した奄美の海洋生物に関する写真７６点は，Ａ３サイズの写真用紙に印刷し，アイランドインフォメーション一面に展示した。写真は，赤や黄色，オレンジ，紫，ピンクと色鮮やかな海洋生物で賑わい，観覧者を楽しませた。

里村強志氏が奄美の森で撮影した写真５９点は，奄美の郷 総合展示ホール入口近くに展示した。アマミノクロウサギやアマミイシカワガエルなど，奄美の森の希少な動植物の生態系を知ることができる内容となっていた。

夏休み期間中に開催したことで，多くの観光客や地元の人々が訪れ，普段なかなか見ることが出来ない海洋生物や森の動植物の写真に来園者は顔を近づけてじっくりとみたり，スマートフォンで撮影したりするなど，奄美の海や森の魅力を十分に感じていただける写真展となった。

③夏休み親子手作り教室～アクアドームを作ろう～

日時：平成３０年７月２８日（土）１０：００～１１：００

場所：レクチャールーム　参加者数：３２名

内容：　ネリヤカナヤフェスタの一環で「夏休み親子手作り教室」を開催した。内容は，ネリヤカナヤフェスタにちなんだ「アクアドーム」の作成であった。定員２０名の参加募集を行い，１２組３２名の親子が集まった。早期に定員に達したため，お断りするご家族もあった。

当日は，パーク職員が講師を務め，作り方を冒頭で説明し，各々作業に取り掛かる形であった。材料は，貝殻やシーグラス，海洋生物のアクリル人形，ビン，

ボンド，ラメ，スポンジ，洗濯のり等を使用した。ビンやスポンジ，ラメは１００円ショップなどで購入し，参加者が家庭でも再度作れるような物を用意した。また，様々な種類の貝殻やラメ，海洋生物のアクリル人形などを参加者がそれぞれ好きなように装飾することによって，世界で一つだけのオリジナリティあふれたアクアドームを作成することが出来た。

参加者は，親子で協力しながら一所懸命作業に取り組んでおり，制作中は始終賑やかであった。アクアドームが完成すると，嬉しそうにする子どもの姿を撮影する親の姿が多く見られた。材料や作り方が分かった参加者からは，「家でも作ってみよう」とうれしそうに会話する姿が見られ，参加者にとって楽しい夏休みの１ページとなった。

（４）サマーコンサート

日時：平成３０年８月２６日（日）１３：３０～１５：１５

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２００名

内容：　今年度開催したサマーコンサートは，「奄美在住の子どもたちを中心としたステージ」をコンセプトに掲げステージ構成を行った。

楠田哲氏が代表を務めるチームベルカントスの呼びかけにより，キッズチアダンスの「Ｓｗｅｌｌ」，高校生バンド「やっとかっと」，「節田体操クラブ」，「ＧＯ！とびんにゃーず」，劇団「稀」の５団体が出演し，会場を盛り上げた。

司会進行は，大島北高校３年生の佐藤望蒼さんが務めた。初めての司会進行とのことであったが，設営の合間に出演者らにインタビューするなど，初めてとは思えない気転の効いた司会ぶりであった。

トップバッターのキッズチアダンス「Ｓｗｅｌｌ」は奄美で唯一のチアダンスクラブで，その中でも小学生が出演し，楽しく明るいダンスを披露した。

続いて出演した高校生バンドの「やっとかっと」は，フォークソングであるＮＳＰの「１７才の詩」で始まり，長渕剛の「おいらのうちまで」，吉田拓郎の「流星」，ふきのとうの「影法師」を披露し，曲演奏が終わるたびに大きな拍手が沸き起こっていた。

節田体操クラブの子どもたちは，普段の練習の成果を発表し，柔軟な動きを披露した。指導者らは，サルやスパイダーマンのコスチュームを身に付けパフォ

ーマンスを行い，子どもたちと一緒に来場者を楽しませた。

「ＧＯ！とびんにゃーず」は，今回，５歳の女の子をヴォーカルにむかえ，「カントリーロード」や，オリジナル曲「とびんにゃの唄」，中島みゆきの「悪女」などを披露した。会場からは手拍子や，体を左右に揺らしてリズムをとる姿が見られた。

（５）奄美パーク夏まつり　シマジマだより～徳之島～

日時：平成３０年９月１日（土）１３：３０～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約４００名

内容：　毎年，奄美群島各島々に焦点を当てて行っている本イベント。今年は，徳之島に焦点を当てて開催した。徳之島町からは「治井島唄教室」・「亀津浜踊り保存会」，天城町からは「結シアター手舞」・「城朋仁」，伊仙町からは「ダンススクールＣＯＲＥ伊仙教室＆名瀬教室」，「基山メチャばあ」の計 6 団体がステージを披露した。

まずは治井島唄教室の４名による元気な島唄で開幕。次にダンススクールＣＯＲＥ伊仙教室と名瀬教室がコラボして元気いっぱいの軽快なダンスで会場を楽しませた。亀津浜踊り保存会は総勢 33 名の出演者全員で輪を作って伝統芸能の浜踊りを豪快に披露した。自称 100 歳の基山メチャばあさんは歌に合わせたコミカルな演技で会場を楽しませた。結シアター手舞は島口ミュージカルを 15 分間の短縮バージョンで披露し，迫力ある演技で会場を大いに盛り上げた。城朋仁さんによるバンド演奏では，島のブルースや自身のオリジナル曲などを歌い上げた。

最後は，治井島唄教室によるワイド節などに合わせて，出演者・来場者一緒になって踊り盛大にイベントを締めくくった。

（６）フユウンメコンサート

日時：平成３０年１２月２日（日）１３：３０～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２００名

内容：　今回は，歌と演奏に焦点を当てたステージ構成を行い，司会進行は FM たつごうの西桂吾さんが務めた。園長の挨拶の後，節田小学校の児童によるアマンディー太鼓の演奏を皮切りに，千田真帆さん，朝岡歩紀花

さん，朝岡明紀さんらが朝花節・黒だんど節・請くまま ん女節・今ぬ風雲節・豊年節を披露した。続いて Ｎａｎａによるアコースティックギター演奏に併せアレンジした島唄や歌謡などが披露され，会場では手拍子や歌をくちずさむ来場者の姿などが見られた。

今年初出演となる龍郷町立龍南中学校吹奏楽部は，学生らしい元気いっぱいの演奏を披露した。また，プログラムの最後は，瀬戸内町吹奏楽団がじゅまるが飾り，クリスマスを思わせる曲を織り交ぜて披露された演奏に，来場者は手拍子をしたり体を揺らしたりして聴きいっている様子であった。

最後はアンコールに応え，島のブルースで締めくくった。大きな拍手が起こり，冬の折り目のイベントに相応しい内容となった。

（７）奄美パーク新春寄席

①奄美パーク公演

日時：平成３１年１月５日（土）１４：００～１６：００

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約３００名

内容：　毎年恒例となった奄美パークの新春寄席を１月５日（土）屋内イベント広場にて開催した。今年は，８年連続の出演となる三遊亭鬼丸さん（真打）を始め，林家けい木さん（二つ目），パーマ大佐さん（ウクレレ漫談）の３名に御出演いただいた。

毎年行われる寄席を楽しみにしている方も多く，会場には大勢の観客が詰めかけた。最初は林家けい木さんがまくらで場を温めた後本題の演目である，落語「新聞記事」を披露した。続いて，三遊亭鬼丸さんが登場し，落語「締め込み」を披露すると会場は大きな笑いにつつまれた。中入り後は，ウクレレ漫談のパーマ大佐さんが登場。童謡の替え歌をウクレレで弾き語り，会場を沸かせた。最後は再度登場した三遊亭鬼丸さんが落語「井戸の茶碗」を披露し，トリを飾った。

演目終了後には，三遊亭鬼丸さんの手ぬぐいや扇子をプレゼントする抽選会を開催した。

②沖永良部島公演

日時：平成３１年１月６日（日）１３：００～１５：００

場所：おきえらぶ文化ホール　あしびの郷・ちな

入場者数：約１５０名

内容：　一昨年より，奄美群島各離島で開催している奄美パーク出張新春寄席を今年は沖永良部島のおきえらぶ文化ホール あしびの郷・ちなにて開催した。今年は，奄美パークで開催している新春寄席に８年連続で出演していただいている，三遊亭鬼丸さん（真打）を始め，林家けい木さん（二つ目），パーマ大佐さん（ウクレレ漫談）の３名に御出演いただいた。

来場者は，慣れない落語に始めは肩に力が入っていたが，林家けい木さんがまくらで緊張をほぐすと，その後の落語「ちりとてちん」で多くの笑いを誘った。続いて，三遊亭鬼丸さんが登場し，落語「目薬」を披露すると，会場は笑いにつつまれた。

中入り後は，ウクレレ漫談のパーマ大佐さんが登場。鍵盤ハーモニカやキーボード，ウクレレなどの楽器で人気アニメの効果音を再現したり，童謡の替え歌などを披露したりした。

最後に再度登場した三遊亭鬼丸さんが落語「御神酒徳利」を披露し，沖永良部島の人たちに落語の笑いを届けた。

演目終了後には，三遊亭鬼丸さんの手ぬぐいや扇子をプレゼントする抽選会が開催された。抽選で当たった方が早速手ぬぐいを身につける場面などがみられ，和やかな雰囲気で締め括られた。

（８）初春唄あしび

日時：平成３１年１月１３日（日）１３：００～１５：００

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約１５０名

内容：　あやまる会の畠来莉朱さんと政木花音さんが司会を務めた初春唄あしびは，須野集落の手遊び歌，シマ唄，八月踊りなどで来場者を楽しませた。

まずはじめに，あやまる会出演者全員による「うんにゃだる」というお正月の手遊び歌でイベントの最初を飾っていただいた。次に，唄者全員で「朝花節」を披露し，来場者を魅了した。

また，須野八月踊りでは，あやまる会の皆さんも須野集落の皆さんと一緒になって八月踊りを披露し，来場者と一緒に盛り上がった。

後半も引き続きシマ唄が披露され，出演者全員による「渡しゃ」，「ワイド節」を披露した。会場からは，手拍子や一緒になって踊る姿も見られた。友情出演を

した福山幸司さんと平久美さんは，「上がる陽の春加那」を披露した。

イベント最後の六調には来場者も一緒になって参加し，盛大な締めくくりとなった。

（９）奄美パーク春まつり～サンガツサンチ～

日時：平成３１年３月３日（日）　バザー　　１１：００～１５：３０
ステージ　１３：３０～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約４００名

内容：　サンガツサンチの桃の節句にちなんでイベントを開催した。ステージでは，女性を中心とした出演者がシマ唄や新体操，ダンスなどを披露し来場者を華やかな雰囲気で魅了した。また，「ひなまつりマーケット」と題して，食品およびアクセサリー等の物品販売を行った。

ステージ発表では，あやまる会による島唄で，幕を開けた。

続いてはティダスポーツクラブ，B→Matonds☆Dance Studio の子どもたちが，リボンを使ったかわいらしい演技や，軽快なダンスを披露し会場を楽しませた。

井上もえさん，徳永理咲さん，成瀬茉倫さんの３名が，「くるだんど節」や「よいすら節」，「らんかん橋節」，「野茶坊」，「朝花節」，「請くま慢女節」などを唄い会場を魅了した。

高校を卒業される成瀬茉倫さんに園長から感謝状と花束が手渡された。

ステージの最後を飾ってくれたのは，山ゆり会の皆さんだった。のびやかな歌声で島唄を披露し会場を盛り上げた。

「ひなまつりマーケット」では，「味の郷かさり」さんと「coconut」さんが飲食ブースを設け，奄美特産の加工品や軽食を販売した。物販ブースでは，奄美在住のハンドメイド作家の「room505」さん，「炉～irori*」さん，「Atelier M」さんが出店し，手作りのアクセサリーや小物を販売し，来場者はステージとともに飲食，物販のひなまつりマーケットも楽しんでいた。

２　奄美の郷ライブステージ

（１）新民謡・奄美歌謡コンサート

日時：平成３０年５月２７日（日）１３：３０～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約３００名

内容：　地元の㈱セントラル楽器と協同し，歌謡イベント「新民謡・奄美歌謡コンサート」を開催した。

歌手としてだけでなく，作曲等も手がけている久永美智子さんによる「新野茶坊」で開幕し，華やかなスタートとなった。カラオケ機材につなぐことで，大型スクリーンに歌詞が映し出され，来場者も一緒になって口ずさんでいる姿も見られた。

続いて中島章さん，福永則雄さん，米重美智子さん，嶺勝己さん，しぃちゃん，久志哲美さん，中井真弓さんと出演者が１曲ずつ順に唄い会場は盛り上がった。

その後，各出演者が２曲ずつ披露した。中には手拍子をする姿も見られた。進行は，セントラル楽器から委託された本田アツ子さんが務めた。

米重美智子さんの「つむぎ一筋」，福永則雄さんの「想思樹の花」，しぃちゃんの「島の宝」に合わせて，一条流奄美本部の方々が踊りを披露した。

最後は久永美智子さんの「あやまる小唄」の曲に合わせて，出演者全員がステージに上がり，賑やかな閉幕となった。

（２）奄美の郷ライブステージ「龍郷町懐メロ同好会」

日時：平成３０年９月１６日（日）１３：３０～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約３００名

内容：　「龍郷町懐メロ同好会」による奄美の郷ライブステージを開催した。当日は，敬老の日の前日ということもあり奄美群島各地で様々なイベントや行事が開催されたが，龍郷町懐メロ同好会の出演を楽しみにしているリピーター等，多数の来場者が訪れた。

イベントでは，龍郷町懐メロ同好会と友情出演として日舞紫乃華舞舞踊教室・フラカオスタジオの方々がステージを披露した。プログラムは３部構成になっており第１部では龍郷町懐メロ同好会全員による「誰か故郷を想わざる」でスタートし生バンド演奏で昭和の名曲の数々が披露された。来場者は出演者の歌に合わせて手拍子をしたりハンカチを振るなどして，一緒になって会場を盛り上げてくれた。

第２部では友情出演で日舞・フラダンスが披露されイベントに花を添えた。

第３部は再び龍郷町懐メロ同好会によるステージで，出演者は準備した華やかな衣装に身を包み第１部とは雰囲気の違った楽しいステージを披露してくれた。

（３）あまみのさと　しまうたライブ

日時：平成３０年１１月１８日（日）１３：３０～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２５０名

内容：　各地で開催されている島唄大会で優勝者を数多く輩出している「日本民謡協会奄美連合委員会山ゆり会」を中心に「あまみのさと　しまうたライブ」を開催した。

山ゆり会による島唄，藤扇流，一条流（奄美本部）による日本舞踊など多彩な構成で，来場者を楽しませた。当日は島内各所でイベントや行事等が多数開催されていたが多くの方々に来場していただけた。

まず始めに，山ゆり会唄者全員による「朝花節」でイベントがスタート。次に，山ゆり会最年少の小学３年生の朝そらさんに続き，その後も山ゆり会の会員それぞれが日頃の練習の成果であるのびやかな歌声を披露し，来場者を魅了した。

日舞のステージでは，藤扇流は「石狩挽歌」，一条流（奄美本部）は「男の流儀」の曲にあわせて日本舞踊を披露しステージに花を添えた。

後半も引き続き山ゆり会による島唄が披露され，イベントの最後は，出演者全員による八月踊り「さんだまけまけ」と「赤木名観音堂」，「六調」を踊り来場者も参加する姿が見られ，盛大な締めくくりとなった。

（４）奄美パークパフォーマンスバトル２０１９

日時：平成３１年２月１０日（日）１３：３０～１６：００

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約４００名

内容：　パフォーマーの皆様が日頃の練習の成果を発表する場を提供するとともに幅広い年代の方々にパフォーマンスを楽しんでいただくことを目的として，毎年恒例の「奄美パークパフォーマンスバトル２０１９」を開催した。島内外問わず様々なジャンルのパフォーマーを公募し，今年は１２団体・約１００名が優勝・

準優勝を争った。優勝・準優勝は，得票数により決定。投票方法は各出場者が３票を持ち，自身以外の出場者に相互投票をする形式であった。

出場者のジャンルは，体操や琉舞，フラダンス，楽器演奏など多種多様で，来場者は様々なジャンルのステージを楽しんでおり，時折出場者のダンスに合わせて手拍子をするなどバトルを後押しした。

投票の結果，優勝を手にしたのは「Sei-chan and T-brother's」であった。「Sei-chan and T-brother's」は，奄美のパフォーマーSei-chan と，その仲間たちからなる４人グループで，アクロバティックなパフォーマンスとコミカルな動きを交え，見る者を楽しませることを意識したパフォーマンスであった。迫力ある演技に会場からは，何度も拍手が沸き起こった。

準優勝を獲得したのは「大島北高校ダンス同好会」，特別賞を獲得したのは徳之島からエントリーした「Leisurely 舞桜」であった。両者共に，会場を沸かせる素晴らしいステージを披露し，見事賞を勝ち取った。なお，特別賞に関しては奄美パークによる審査で決定した。

また，今回特別ゲストとしてステージに花を添えたのは，昨年度優勝した「奄美☆舞創喜」であった。昨年の奄美市文化祭で披露した森をテーマとしたダンスで会場を魅了した。

イベントの最後は，出演者全員で記念撮影を行い，楽しく賑やかな締めくくりとなった。

その他の出場者は，Hula-みんご（ダンス），森田佐喜雄（楽器演奏），ククイ フラ ハラウ（ダンス），嘉はな（歌），浦脇義雄（舞踊），奄美ジュニアレスリング（ダンス），奄美フォークダンスクラブ（ダンス），島のよさこい（ダンス），玉城流琉扇會山元孝子琉舞道場（琉舞）であった。

３　文化講演会

「防災エンスショー」

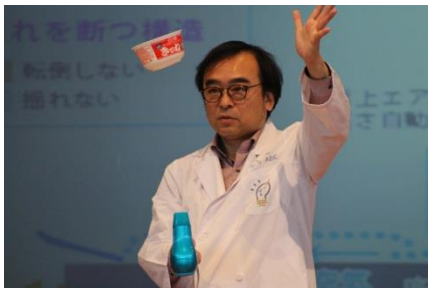
日時：平成３１年１月２６日（土）１３：３０～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約１５０名

内容：　近年，地震や台風などの災害が多く，奄美大島は台

風の通り道となることが多いことから，防災士である阿部清人氏をお招きし，科学実験を交えた防災に関する講演会を「防災エンスショー」と題して開催した。

まず始めに，来場者に大きな拍手の練習を促した。これは，大きな拍手をすることで掌が熱くなる摩擦熱を体感してもらうためだった。その後も身近な物を使った実験などを詳しい解説と共に披露した。電気の話では，昔から使われている白熱球とＬＥＤの構造上の違いなどを分かりやすく解説した。ＬＥＤ電球では，プラス電極とマイナス電極のつなぎ方で色が変わることを，来場者の中から二人の子どもに舞台に出てきてもらい，体験させながら解説した。来場者からは，まるで手品のショーを見ているかのような歓声と拍手がおこり，熱心に見入っている様子であった。



最後に，巨大空気砲による煙の輪が飛び出すと会場の熱気は最高潮に達した。

来場していた子どもたちからは，空気砲から放たれた輪を追いかける姿や，手で触れようとする姿が見られた。

防災エンスショーが終わった後は，子どもたちに小さい空気砲を体験させていた。

４　わきゃステージｉｎパーク事業

（１）第２回雪国長岡南国奄美交流茶会（主催：あやまる会，表千家われもこう）

日時：平成３０年５月４日（金・祝）
お茶会　９：００～１５：００
ステージ　１３：３０～１５：２０
場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２８０名
内容：　新潟県長岡市の茶道グループ「表千家われもこう」と奄美の島唄グループ「あやまる会」主催による「第２回雪国長岡南国奄美交流茶会」が開催された。

表千家われもこうによるお茶の振る舞いは，当初１０時から行う予定であったが，予定より早く９時の開園と同時にスタートした。客席には，新潟県糸魚川市で採れる翡翠をかたどった飴細工のお菓子と奄美の黒糖が茶菓子として出され，お茶と一緒に振る舞われた。われもこうの会員１２名は，それぞれ自前の大島紬を着用しており，観光客や地元の住民などに大島紬の魅力をＰＲすることができた。

１３時３０分からは，同時開催であやまる会及び須野集落の八月踊り保存会による島唄や歌謡曲，八月踊りが披露された。冒頭は，祝い唄である長朝花節からスタート。唄が終わると，われもこう主宰の太田藤枝さんが挨拶。挨拶の中で太田さんは「今年も無事に交流できてほっとした。改めて奄美の方々の温かさを感じている。今後も細く長く続けていけたら」と語った。客席では来場者が島唄を聴きながら，振る舞われたお茶やお菓子を楽しんでおり優雅なひと時を過ごしていた。

ステージの最後に，六調の音楽が鳴り出すと客席やわれもこうメンバーが輪になって踊り出し，賑やかな幕引きとなった。

（２）ｆｕｎ＋ファンタス～日常に楽しいことをプラス！！～（主催：ファンタス実行委員）

日時：平成３０年５月２０日（日）
１３：３０～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約４００名

内容：　ファンタス実行委員主催によるチャリティイベント「ｆｕｎ＋ファンタス～日常に楽しいことをプラス！！～」を屋内イベント広場で開催した。今回のイベントは，同委員代表であり言語聴覚士でもある里尚美さんが進行性の難病である筋委縮性側索硬化症（ＡＬＳ）を患っている三井さんが精神的に落ち込み，外に出る機会が少なくなっているのを見て，三井さんや他の障害のある方たちに「とにかく外に出る機会を作ってあげたい」と考え計画された。里尚美さんの思いに，島を代表するアーティストたちや，多くの企業や医療関係者，ボランティアスタッフなどが賛同し今回のイベント開催に至った。

会場には，招待された難病や障害を持つ子どもとその家族をはじめ，一般の来場者も数多く詰めかけた。

イベントの開幕は，バナナマフィンさんによる陽気なラップでスタート。軽快なリズムに会場も盛り上がった。

続いて，地元で活躍しているシンガーソングライターの森拓斗さんや世界で活躍している南米ビートのジャンベ奏者の山北紀彦さん，地元で人気の島唄バンドのサーモン＆ガーリックさんなどが出演した。

イベントの最後は，メジャーデビューを果たし，全

国で活動している音楽ユニット「カサリンチュ」が飾った。話題になった曲などを披露すると，会場の熱気は最高潮に達した。ステージが終わり，カサリンチュが退場した後もアンコールが鳴り止まず，会場の熱気に押されて再びカサリンチュがステージに登場すると会場は大いに盛り上がった。

最後は，同委員代表の里氏による挨拶で締め括られ「まずは地域で繋がり，多くの友だちを作ることで支援の輪も広がる。みんなの協力の賜物でもあるが，今後も続けたい」と語った。

（３）第９弾！！島んちゅ会 でぃ・まーじんま！（主催：島んちゅ会）

日時：平成３０年７月１５日（日）１３：３０～１５：５０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２６０名

内容：　島んちゅ会主催による「第９弾!!島んちゅ会　でぃ・まーじんま！」を開催した。今回で９回目となり前回から２年ぶりの開催となった。

福山幸司さん・平久美さんの長朝花節から始まり，隆柳勘大社中 child チームが舞踊やフラダンス，島んちゅ会生徒らが島唄を披露した。出演者全員で行われた三線合奏では迫力ある演奏で会場を沸かせた。友情出演した本田廣喜さんは綾はぶら節，砂糖作りの唄，かんつめ節を披露しイベントを盛り上げた。

隆柳勘大こと隈元康子さんと隆柳勘夢こと興ほずみさんによる舞踊の披露，日本舞踊花柳流中原冨喜子さんによる日本舞踊もあり会場を魅了した。

最後はワイド節や稲すり節，六調などを福山幸司さんや平久美さんらによる三線と囃し，太鼓の演奏で出演者と来場者が一緒になって踊り，会場は大いに盛り上がった。

（４）第５回ならびや歌謡ショー　懐かし昭和歌謡とよさこい踊り（主催：ならびや）

日時：平成３０年８月１８日（土）１３：３０～１５：１５

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２５０名

内容：　地元の歌謡グループ「ならびや」主催による「第５回ならびや歌謡ショー 懐かし昭和歌謡とよさこい踊り」が開催された。

トップバッターを務めたのは，ならびや代表の和田孝之さんと同メンバーの作まゆみさんであった。デュエットで「瀬戸の連絡船」を披露した。その後も次々

と同歌謡グループのメンバーが出場し，懐かしい昭和歌謡曲を披露した。

中盤では，瀬戸内町出身で現在東京で活動をしているシンガーソングライターのＲＹＵＫＩさんが特別ゲストとして出演し，オリジナル曲である「声～君をcheerするメッセージ～」と「夕暮れ」の２曲を披露した。会場には，ＲＹＵＫＩさんのファンも詰めかけ，花束を渡す場面などが見られた。

続いて登場したのは，同じく特別ゲストの「チーム・ルリカケス」であった。同チームは，奄美大島出身のメンバーで構成されており，関西で活動している。講師は，泉州ソーリャ踊り子隊の代表である藤田純子さんが務めており，今回のイベントは藤田さんも同チームと一緒に踊った。同メンバーと藤田さんは，よさこい踊りを有名なソーラン節や奄美の歌姫ＲＩＫＫＩが歌う「リッキの六調」など様々な曲に合わせて披露し，会場を楽しませた。

イベントのトリは，ならびやメンバーである岩田幸喜さんが務め，昭和の名曲３曲を披露し，その壮大な歌声で会場を沸かせ賑やかな締めとなった。

（５）エビナマスジ×Ｎａｎａ　２マンライブ『再会の風歌』（主催：大野正喜）

日時：平成３０年１０月２０日（土）１３時０５分～１５時１０分

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２０名

内容：　地元で音楽活動をしている大野正喜さん主催による「エビナマスジ×Nana　２マンライブ『再会の風歌』」を開催した。

地元の男性３人によるバンド演奏で開幕。懐かしいフォークソングの演奏に会場は静かに耳を傾けていた。

続いて登場したのは，北海道稚内出身で地元の観光大使を務めるシンガーソングライターのエビナマスジさんと古館賢治さんであった。古館さんのメロディーに合わせて弾き語るエビナマスジさんの透き通った歌声に，会場は聴き入っている様子で，歌に合わせて手拍子をする場面などもみられた。

その他にも，地元で活動している音楽ユニットＮａｎａや瀬戸内町出身の唄者米田みのりさんなどが出演し会場を盛り上げた。Ｎａｎａが客席に向けてトークをすると会場から笑いが起こる場面などがあり，和やかなステージであった。

ステージの最後は，Ｎａｎａ及び米田みのりさんによる六調で締め括られ，賑やかで楽しい幕引きとなった。

（６）２０１８奄美 美の競演（主催：美の競演実行委員会）

日時：平成３０年１２月９日（日）１４：００～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２５０名

内容：　美の競演 実行委員会主催による大島紬と京染の和装ファッションショー「２０１８奄美 美の競演」が開催された。美の競演は，和装の文化を広めようと２００４年から開催しており，今回は，総勢約３０人のモデルが出演した。

先着１００名に「金の亀」キーホルダーをプレゼントすることを事前にうたったためか，イベント開催時間の約３０分前には多くの観客が会場に詰めかけた。

色とりどりの華やかな京染着物や上品で落ち着いた色合いの大島紬を身にまとったモデルたちが，舞台上に立つと観客からは「綺麗」，「ステキね」などの感想を言い合う姿がみられた。

また，地元で活動している舞踊グループ隆柳流が出演し，会場を沸かせた。

イベントの最後には，反物やシルクのストールなどが当たる抽選会が開催され，会場は大いに盛り上がった。

（７）アマービレ吹奏楽団スプリングコンサート（主催：アマービレ吹奏楽団）

日時：平成３１年２月１６日（土）１４：００～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約１５０名

内容：　地元で活動している吹奏楽団「アマービレ吹奏楽団」主催による「アマービレ吹奏楽団スプリングコンサート」を開催した。

ステージは，マーチ「鳥たちの歌を聴きに行こう」で開幕した。団員による解説などを交えながら，全 10 曲を披露した。

ステージは全３部構成となっており，１部と３部が全体ステージ，２部アンサンブルステージとなっていた。演奏する曲によって楽器が異なり，全員で演奏する迫力ある曲や，金管楽器八重奏，クラリネット三重奏，トランペットアンサンブルなどバラエティに富んだ内容であった。

また，選曲も誰もが知っている知名度の高い曲が多く，会場の観客が曲に合わせて体を揺らしたりする場面などが見られた。

締めの「与論島慕情」では，曲に合わせて団員が歌う場面などが見られ，会場はその曲に聴き入っており，和やかな雰囲気で締め括られた。

（８）第８回ならびや歌謡ショー　春の歌謡祭（主催：ならびや・夕月会）

日時：平成３１年３月１０日（日）１３：００～１５：１０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２５０名

内容：　地元で活動している歌謡グループのならびやと同じく地元で活動している奄美歌謡グループの夕月会が主催の「第８回ならびや歌謡ショー 春の歌謡祭」を開催した。

司会は，ならびやの代表である和田孝之さんが務めた。

プログラムは，３部構成となっており，第１部がならびやによる昭和歌謡，第２部が藤扇流奄美本部による日本舞踊，そして第３部が夕月会による奄美歌謡の披露であった。

イベントの幕開けは，地元で活動している唄者の森永あすかさんによる祝い唄であった。その透き通るような歌声に客席は静かに耳を傾けていた。続いてベッチェ生元さんが登場し男傘を熱唱，合間のトークで会場の笑いを誘った。

第２部は，藤扇流奄美本部が登場し４曲，日本舞踊を披露した。その優雅で華麗な舞に会場は魅入っている様子だった。

第３部は，地元で有名な歌手の久永美智子さんが奄美歌謡を披露し，その高音でどこまでも響く歌声に，会場は静かに聴き入っていた。

イベントの最後は，２０１８年８月に“奄美あるある”を島唄歌唱で歌う「大島エレジー」でメジャーデビューを果たしたミュージシャン「タナカアツシ」さんが出演した。全部で３曲披露し，会場では曲に合わせて踊る場面などがみられ，賑やかな締めとなった。

出場者は以下の通り。作まゆみさん，日舞仙田流，ベッチェ生元さん，和田孝之さん，森永あすかさん，藤扇流奄美本部，久永美智子さん，平紀久美さん，福永則雄さん，久志哲美さん，金井直利さん。

（９）第８回龍郷町キットハレ芸能祭（主催：龍郷町懐メロ同好会）

日時：平成３１年３月１７日（日）１３：３０～１６：１５

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約５００名

内容：　「龍郷町懐メロ同好会」主催の「第８回　龍郷町キットハレ芸能祭」が開催され，３部構成で全３２曲の楽曲を演奏披露した。

第一部では，主に昭和の名曲を中心として，生バンド演奏をバックに，龍郷町だけでなく宇検村や瀬戸内町からも出演者が参加し，それぞれ自慢の歌声を披露した。演奏曲のほとんどが昭和３０年代の楽曲ということもあり，御年配の方が多く来園されていた。

イベント中，客席では音楽にあわせて体を揺らしたり，手拍子をとる姿も見られた。また，観客から出演者へ声援が送られたり，花束を手渡したり，紙テープで別れを再現するする一幕もあった。

第二部では，友情出演として紫乃華舞舞踊教室の日舞とフラカオスタジオのフラダンスが披露され，それぞれの華やかな踊りに観客はまた異なる空気を楽しんでいる様子だった。

第三部では，第一部に引き続き龍郷町懐メロ同好会による唄の披露があり，唄は勿論，個性的な衣装や語りなども盛り込まれ，最後まで観客を飽きさせることのない充実したステージとなった。

５　その他自主事業及び共催事業

（１）奄美パーク de フリマ

日時：平成３０年６月２４日（日）１０：００～１５：００

場所：多目的広場　　参加者数：約３００名

内容：　地域住民によるフリーマーケットを中心に，子ども向けのゲーム大会・抽選会を開催した。

出店者は８時４５分から搬入及び販売準備を始め，１０時頃には来場者が多目的広場に集まり始めた。

来場者は出品されている商品を見てまわり，ただ商品を購入するだけでなく，その商品について出店者と会話をはずませ，笑ったり話し込んだりしていた。

子どもゲーム大会では，奄美市レクリエーション協会が，輪投げやフリスビーストラックアウト等を用意しており，終始多くの子どもたちが参加し，賑わっていた。ゲームに参加した子どもたちに様々な種類のミニ消しゴムをプレゼントすることで，何度もゲームに挑戦し，ミニ消しゴムを集めて楽しんでいる様子だった。

また，１１時に行った中学生以下が参加できる抽選会は，多くの子どもたちがエントリーし，当選番号を読み上げるたびに盛り上がった。抽選にはずれた子どもたちには参加賞として，奄美パークのクリアファイル，メモ用紙及びしおりをプレゼントした。

２回目の抽選会は１４時からの開催予定だったが，雨天のため，急遽時間を早め１３時３０分から奄美の郷レクチャールームで行うことにした。

参加者は突然の雷雨に濡れながらも抽選会の為に残り，獲得した景品をしっかりと握りしめ，嬉しそうに帰って行った。

出店者，来場者からは「定期的に開催してほしい」，「次は雨や風を気にせず行えるよう，屋内で開催してほしい」など，次回開催を希望する声をいただいた。

（２）奄美パーク展示リニューアルオープニングセレモニー

日時：平成３０年７月８日（日）１１：００～１２：００

場所：屋内イベント広場　参加者数：約１００名

内容：　展示内容の充実とともに，展示解説の多言語化を実施し，奄美の美しい自然や多様な文化など，奄美群島の魅力発信の強化を図ることを目的としたアイラン

ドインフォメーションを中心とした改修工事が完成したためリニューアルオープニングセレモニーを開催した。

式典では，宮崎緑園長が「地元の良さを島民自身に知ってもらう場であったが，これからは世界へ，次の世代へと魅力を伝えるという場となった。ここから観光のムーブメントを作りたい」とあいさつ。

また，オープニングでの節田小学校５，６年生によるアマンディー太鼓の演奏や奄美パーク応援隊としても活動していただいている平久美さんと福山幸司さんによる祝い唄も式典に華を添えた。

最後に，岩切剛志副知事をはじめ，朝山毅奄美市長など関係者１２人がテープカットを行い，新しくなった展示施設に明かりが灯された。

（３）奄美パークハロウィンイベント

日時：平成３０年１０月２７日（土）

- 宝さがし　１０：００～１６：００
- ワークショップ　１３：３０～１５：３０
- フォトブースで写真撮影　１３：４０～１６：００
- スーパーボールすくい　１０：００～１６：００

場所：奄美の郷，田中一村記念美術館 受付

入場者数：約７００名

内容：　近年，ハロウィンイベントやパーティなどが各地で実施されブームとなっていることから，そのブームにあやかり奄美パークで２回目となる「奄美パークハロウィンイベント」を開催した。

当日は，イベント開始時刻と同時に多くの親子連れが詰めかけ，賑やかなスタートとなった。ハロウィンイベントにちなんで，「トリック・オア・トリート」のキーワードを言った来園者にはお菓子をプレゼントした。

「宝さがし」イベントは，奄美の郷無料ゾーン内及び田中一村記念美術館受付前に散りばめられた９つのキーワード用紙を見つけ，指定の回答用紙にそのキーワードを記入して提出すると，プレゼントを入手できるという内容であった。イベントの受付前には多くの来場者が詰めかけ，職員の説明にしっかりと耳を傾けていた。親子での参加者が多く見られ，キーワードを真剣な様子で探したり，発見したキーワードを嬉しそうに回答用紙に記入したりする姿がみられた。正解

した参加者は，満足気にプレゼントを受け取っていた。

「スーパーボールすくい」は，子ども用プールに水を張り，浮かんでいるスーパーボールをポイですくうとスーパーボールが貰えるという内容であった。ただし，挑戦にはポイの引換券が必要であり，ポイの引換券は無くなり次第終了としていた。開催と同時に多くの参加者が詰めかけ，予想を超える参加者に開始からおよそ２０分で引換券の配布を終了した。

１３時３０分からは，地元で手熟を披露している藤井菊美さんを講師に迎え，ワークショップ「くるくるオバケモビールをつくろう」を開催した。材料は，割りばし，画用紙，マジック，セロテープ，色鉛筆，はさみと簡単に用意できるものであり，画用紙に印刷されたオバケに好きな色を塗って個性溢れるお化けを作っていた。１５時３０分までの開催であったが，時間ギリギリまで挑戦する子どもも多く，最後まで賑わっていた。

フォトブースでは，仮装姿を思い出に残そうと多くの親子が詰めかけた。現像した写真をプレゼントすると，友達と笑顔で写真を見る姿が印象的であった。

園内は，仮装をした来園者や宝さがしの参加者などで賑わい，ハロウィンイベントに相応しい賑やかな１日となった。

（４）文化の日イベント

日時：平成３０年１１月３日（土･祝）

①　昔あそび体験会　午前の部：１０：００～１２：００

午後の部：１３：３０～１５：３０

②　ケンムンクイズラリー　終日

場所：①　屋内イベント広場　②奄美の郷

参加者数：①　約３００名　②　１０名

内容：　文化の日は有料施設の観覧料を無料としており，この機会に奄美パークをより身近に感じていただくことを目的に文化の日イベントを開催した。

園内は，この日に合わせて有料ゾーンを観覧する方や，様々な昔あそびを体験しようとする大人や子供らで賑わった。

屋内イベント広場では，「昔あそび体験会」を午前の部・午後の部と２部構成で開催した。体験会は，全部で７つの昔あそびを体験することができた。

昔あそびの内容は，笠利町で盛んな「なんこ」を子

ども向けにおはじきで代用し体験してもらう「なんこ体験」，折紙を使った「メンコ遊び」，紙テープを使った「指ハブ」，そしてアダンの葉や竹，バランを使った「笛」，「神の目」，厚紙とタコ糸を使った「ブンブンゴマ」，割りばしと輪ゴムを使った「ゴム鉄砲」などの作成体験であった。参加者は，各々一生懸命作業に取り組んでおり，すべての昔あそびに参加する方や１つの作品に打ち込む方など様々であった。講師は地元で地域の子どもたちに手熟を披露している奄美手熟師会の方々とパーク職員が務めた。大人と子どもが一緒に楽しめる内容となっており，幅広い年齢層の方が時間いっぱい昔あそびを楽しんだ。

　また，奄美の歴史・自然・文化に興味を持ってもらうために通年開催している「ケンムンクイズラリー」も，この日は有料ゾーンへ無料で入れることから，常時開催した。

　文化の日の無料開放に併せて，奄美ならではの体験ができるイベントを開催したことで，園内は多くの家族連れで賑わい，また，奄美パーク応援隊員が三味線の披露とともに参加者に指導する姿も見られ，奄美パークをより身近に感じていただく機会となった。

（５）第１２回奄美パーク子どもクリスマス会

日時：平成３０年１２月１６日（日）
　　午前の部　１０：００～１２：３０
　　午後の部　１４：００～１６：３０
場所：屋内イベント広場
入場者数：午前の部　約１，５００名
　　午後の部　約１，５００名
内容：　冬休みやクリスマス間近のこの時期に子どもたちにクリスマスを楽しんでもらうために「奄美パーク子どもクリスマス会」を開催した。

　最初に地元で活動しているダンスユニット「ヂルドレン」が登場し，スーパーマリオを題材としたダンスミュージカルを披露した。マリオのキャラクターに扮した３人が登場すると会場は盛り上がり，子どもたちにお菓子を配ると大歓声をあげて喜んでいた。

　続いて登場したのは，サンタクロースの格好などに扮した奄美看護福祉専門学校こども・かいご福祉学科の生徒たちであった。音楽に合わせてステージと会場

が一緒に踊る場面では，多くの子どもたちがステージに上がり一生懸命ダンスを踊っていた。会場では，ダンスを踊る可愛い我が子の姿をカメラに収めようとする御家族の姿が多くみられた。また，奄美看護福祉専門学校こども・かいご福祉学科の生徒たちの掛け声に合わせて，会場の子どもたちも一緒に歌ったり踊ったりと始終楽しいひとときを過ごしていた。

続いて，大阪を拠点に活動をしている「Ｋｉｂｉｔｏ」さんが登場し，大道芸を披露した。バルーンアートを作る場面では，会場の中から子どもを１人アシスタントとして呼び出し，お手伝いをしてもらった。アシスタントの子との掛け合いには，会場からどっと笑いがおこり楽しい時間となった。最後にアシスタントの子に風船で作った剣をプレゼントすると喜んで客席に戻っていった。

ステージ最後の大抽選会は，奄美大島内の企業３２社から多くの景品を御提供いただいた。特別ゲストとして奄美市公式キャラクターのコクトくんも参加し，抽選会に華を添えた。司会が抽選番号を読み上げると，会場は一喜一憂し，自分の番号が読み上げられるのを今か今かと楽しみにしていた。子どもたちが目を輝かせて抽選券を握っている姿が印象的であった。なお，イベントの最後には抽選に外れた子どもたちにお菓子を配布した。始終大勢の家族連れで賑わった１日であった。

（６）けんむんクイズラリー

期間：通年

場所：奄美の郷内，田中一村記念美術館受付

内容：　奄美の郷内 17 箇所，田中一村記念美術館受付に１箇所にオリジナルクイズを掲示し，展示物の解説や，体験コーナーで体験を促すことにより，ゲーム感覚で奄美の事を学べる「けんむんクイズラリー」を実施した。

室内で実施するクイズラリーは，雨の日や日差しの強い夏，寒い冬でも天候を気にすることなく楽しむことができる。また，平成 30 年７月にリニューアルオープンしたアイランドインフォメーションからも出題する事により，展示物をじっくり見てまわる姿も見られた。クイズを解き終わった参加者へは，参加賞の

奄美パークオリジナルシールをプレゼントした。

定期的にクイズを変更すると共に，シールのバリエーションも増やし，参加者がまた挑戦したいと思えるようにした。

また．田中一村記念美術館への誘客につなげるため，美術館の受付にもクイズを掲示した。

何度も挑戦する地元の子どもに混ざって，観光客が親子で挑戦している姿も見られ，より多くの方が奄美への関心を高めるきっかけとなった。

（７）ぱーくまをさがせ！

期間：①　平成３０年９月１日～平成３０年１０月３１日

②　平成３０年１２月１日～平成３１年１月３１日

場所：奄美の郷

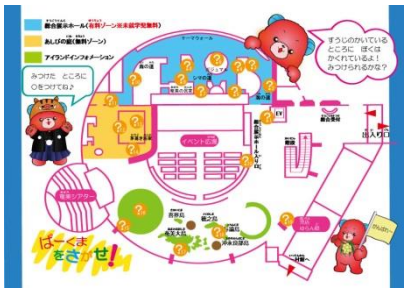
内容：　奄美の郷内 20 箇所にオリジナルキャラクター「ぱーくま」を掲示し，未就学児も楽しめるよう実施した。

室内で実施する「ぱーくまを探せ！」は，雨の日や風の強い日等，天候を気にすることなく楽しむことができる。また，未就学児が対象のため，親子で取り組む姿も見られ，誘客にも繋げることができた。クイズを解き終わった参加者へは，参加賞の奄美パークオリジナルシールをプレゼントした。

第１弾は，９月１日～１０月３１日に試験的に行い，好評であったため，第２弾を１２月１日～１月３１日に行った。いずれも高い評価を得た。

また，季節に合わせたオリジナルシールも増やし，解答用紙の裏側には塗り絵が出来るイラストも印刷しており，持ち帰って遊ぶことが出来るよう工夫し，参加者がまた挑戦したいと思えるよう数種類の塗り絵を用意した。

何度も挑戦する地元の子どもに混ざって，観光客が親子で挑戦している姿も見られた。



第４　田中一村記念美術館企画事業

１　奄美関連作家展及び招待作家展

（１）対話「私が生まれたとき」奄美編

期間：平成３０年３月２５日（日）～４月１５日（日）
場所：企画展示室　　期間中の入館者数：２，５４６名
内容：　武蔵野美術大学油絵学科の長沢秀之教授による絵画展を開催した。

長沢氏は２０１２年以降，様々な土地で出会った人々との交流をドローイングと文章で紹介する『対話「私が生まれたとき」』シリーズに取り組んでおり，本展では奄美編を発表した。

本シリーズで長沢氏は，個人から写真の由来やいきさつについて聞き取り，「私が生まれたとき」で始まる文章と写真を基にドローイングを描くというプロセスで作品を制作しており，観る者が過去から現代までつながる多くの物語を感じられるような展覧会となった。

来場者からは「奄美の戦後史が言葉から浮かび上がり，ドローイングによって具体的なビジュアルなものに定着する不思議な体験をした印象です。」「面白いと思いました。自分と過去と祖先と土地とシマを繋げながら感じることができました。文章の力，絵の力を感じます。」等の感想を得た。

また，３月２５日（日）にはフロアトークも行われ，長沢氏による作品の制作にあたる経緯，想いなどを話した。また，文章執筆者も参加し，長沢氏と対話形式で進行することで，参加者はさらに作品への興味や関心を深めた。

（２）国立療養所菊池恵楓園金陽会作品展「ふるさと，奄美に帰る」

期間：平成３０年４月２０日（金）～５月１３日（日）
場所：企画展示室　　期間中の入館者数：３，７１９名
内容：　国立ハンセン病療養所菊池恵楓園（熊本県）の絵画クラブ金陽会巡回作品展「ふるさと，奄美に帰る」（同実行委員会主催）が開催された。同クラブの絵の保存活動を続ける（一社）ヒューマンライツふくおかの藏座江美理事は，菊池恵楓園で亡くなられた奄美大島出身のお二人の絵を，せめて絵だけでも里帰りしてもら

いたいという思いから展覧会を企画した。

作品展は奄美３か所を巡回し当美術館が最終会場となった。今回は奄美和光園に在職し，国の強制隔離政策に反対した小笠原登医師の描いた掛け軸や長さ約３９メートルの絵巻などを奄美で初めて展示した。

来場者からは「細かなところまでいろんな思いが込められていることや，当事者の方が見えているものが少しでも分かった気がして嬉しかったです。」「絵の中に描かれているモチーフが時々浮かんでぐっとこちらに近づいて来るようでハッとさせられました。遠いところから故郷を思って描かれたのだなぁと胸に迫るものがありました。」等の感想を得た。

４月２２日（日）にはギャラリートークも行われ，藏座理事が作品にまつわる経緯や作者の想いなどを話し，参加者はさらに作品への興味や関心を深めた。

また，５月３日（木）には奄美和光園入所者の依頼がきっかけで企画した「ワイド節」の演奏イベントもあり，多くの島民や観光客が来場し，望郷の思いが込められた唄に合わせて手拍子でリズムをとったり，踊りに加わったりして楽しんでいた。

（３）４コマアート：世界で今何が起こっているのか？

期間：平成３０年７月１４日（土）～７月２９日（日）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：２，１３２名

内容：　特定非営利法人アマミーナが主催となり，カリフォルニア州立大学チコ校の学生と奄美看護福祉専門学校の学生による４コマアートの展示会を開催した。

７月１５日（日）にはオープニングトークとワークショップが開催された。特定非営利法人アマミーナの理事長であり，カリフォルニア州立大学チコ校美術教育学教授の徳雅美氏が講師として，オープニングトークでは４コマアートの奥深さや見所などを解説した。徳氏は「同じ絵の素材でも，どうストーリーが異なるか，じっくり眺めながら作者のアイデアに多様性やウィットを感じて欲しい。」と話した。

ワークショップでは，ゴッホやダリ，田中一村らの著名な絵画を１コマに使い，自由なテーマで実際に４コマアートの創作活動を実施。子どもたちは思い思いの感性で熱心に作品制作に取り組んでいた。参加者か

らは「４コマだけで伝えたいことを描くというのがすごく難しかった。」「どういう順番にするか迷ったけど，上手に出来た。」等の感想もあった。

また，２８日（土）には国立大学法人兵庫教育大学名誉教授の福本謹一氏を講師にクロージングトークの開催予定だったが，福本氏が台風により来島できなかったため，徳氏によるギャラリートークを開催し，参加者は作品について更なる理解を深めた。

来場者からは「１枚の絵をモチーフにしたり表現を変えたりヒントにして４コマアートを作られていて，とても興味深かった。海外の方々の表現は面白く日本の方々のはストーリーが面白かった。」「日本の学生とアメリカの学生の絵を見比べてみると日本の学生は結構淡い色づかいが多いのに対して（アメリカの学生は）はっきりした色づかいが多く，そこがまた面白いなと思った。」等の感想を得た。

（４）奄美人と彝人―海の民・山の民―

期間：平成３０年８月３日（日）～２７日（月）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：３，７１２名

内容：　中国大陸の山岳民族・彝族（いぞく）を撮り続けている写真家・小松健一氏と鳥里鳥沙（うりうさ）氏，奄美の生活文化を撮り続ける島在住の写真家・久野末勝氏と武部守俊氏の４人による写真展「奄美人と彝人―海の民・山の民―」を開催した。

本展覧会では内と外からそれぞれ感じとった奄美と彝族の写真約１００点を展示。ゲストとして村上光明氏，眞月美雨氏もそれぞれ作品を出品した。

小松氏は「奄美と彝族，海の民と山の民との違いはあるが，アニミズムや神の世界，精神性などはお互い似ている」と述べ「どちらも自然と共に暮らす文化。その共通性や違いを感じてほしい。」と話した。

８月３日（金）にはオープニングセレモニーとして喜界島の唄者川畑さおり氏による島唄の披露やギャラリートークを開催。小松氏は彝族の歴史や風習を紹介し「彝族も唄や踊りが大好き。豚を食べ，無病息災を祈るところなども奄美に近い。」と説明。奄美の原風景や土着文化を写してきた久野氏からは「山の深さや自然，奄美の多くに魅せられた。奄美生まれの自分が感じる奄美そのままを見てほしい」など，撮影者自

身による作品の解説を行い，参加者は更に作品への理解を深めた。

来場者からは，「彝族の方々の暮らしぶりが奄美の人々の私達の小さい頃を思い出し，懐かしい気持ちになり，心がほのぼのとしました。」「写真で切り取った現地の様子を近くに体験することが出来たと思います。風景もそうですが，老人の表情，子どもたちの純真な笑顔などは圧巻でした。」等の感想を得た。

（５）老いてますますＧｅｎｋｉ！荒波老娘（あらばおとめ）の手作り作品展

期間：平成３０年１２月２３日（日・祝）～平成３１年１月１４日（月・祝）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：３，１０６名

内容：　龍郷町の中でも風光明媚な地域と言われている荒波地区の手作りサークル「荒波老娘の会」による作品展を開催した。昨年２月に龍郷町で開催された龍郷町民フェアへの作品出展を機に「地区内に様々な趣味を持っている人がいる。表現された作品をもっと多くの人に見てもらいたい。」と同会を発足した。

本展では，ガジュマルや風景を描いた墨絵，染色したのれんやパッチワークなどの装飾品，ホンダワラやカラムシ，シャリンバイなど地元の自然素材を使い織られたバッグなど，会員７名による１００点の作品を展示し，会場の一角には荒波地区のＰＲコーナーも設けられた。

展示会初日にはギャラリートークもあり，出品者がそれぞれ作品への想いを語った。代表の森田啓子氏は「いつまでも自分の好きなことをやりながら人生を楽しめたら良いなと思い始まった企画。これからモノづくりする人の活力にもなれば幸いです。」などと挨拶した。

来場者からは「どの作品も，一針一針ひとつひとつの工程が丁寧で心のこもったものであり，元気をいただきました。」「伝統を用いた色々な作品，また自由な発想での作品など島の作者の方々の元気と意欲を感じました。」「手作りの良さ，丁寧さ，あたたかみを感じました。」などの感想があり，多くの方に楽しんでいただけた展覧会となった。

（６）新芸術協会作家三人展 IN 奄美

期間：平成３１年１月２７日（日）～平成３１年２月１７日（日）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：３，２９２名

内容：「新芸術協会作家三人展 IN 奄美」では，新芸術協会の理事の一人でもある星村義一氏のふるさと奄美大島で，星村氏が長年描き続けてきた美の世界と，同じく新芸術協会で活躍する阪上正信氏及び後藤環氏による友人二人が求める美の世界が響き合う展覧会として，抽象画，風景画などそれぞれ作品を併せて６６点展示した。

１月２７日の開会に先立ち，前日の１月２６日には作家３人によるプレオープン・ライブトークイベントが行われた。ライブトークでは作家３人が来場者から質問を受けながら進行し，画家の作業環境や絵を描き始めた経緯，現在に至るまで描き続けている理由などを語った。

星村氏は「なかなか奄美で抽象画などを観る機会は少ないと思う。３人の作家の油絵，水彩など様々な描き方を堪能できる。是非多くの方に足を運んでほしい。」と話した。

会期中は島内の方々のみならず，多くの観光客が作家と交流を深め，作品制作についての思いや見所などを熱心に聞いていた。

来場者からは「抽象，具象，半抽象３人３様で良かったです。」「凄く絵も綺麗で，何故このようにぼこぼこしているように描けるのかなと思いました。」「素晴らしいの一言です。迫力ある作品で，抽象画の面白い世界をみることができました。」などの感想があり，多くの方に楽しんでいただける展覧会となった。

（７）第２回奄美横浜交流　遊展

期間：平成３１年２月２４日（日）～平成３１年３月１０日（日）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：２，６８２名

内容：　奄美と横浜の芸術を通した文化交流を目的として，「第２回　奄美横浜交流遊展」が開催された。両地域は２００３年に，奄美大島であった奄美群島日本復帰５０周年と名瀬美術協会３０周年を記念した交流展の開催以来，双方の地域で企画展などを開き親交を深めてきた。

本展の開催は２００７年に続き２回目となり，今年の１０月に横浜美術協会が創立１００周年を迎えることを記念して企画され，奄美作家の作品２０点，横浜作家の作品４３点の計６３点に及ぶ日本画，洋画，水彩画などの新作絵画を中心とする作品が展示された。

展覧会初日にはギャラリートークもあり，島内作家のみならず，この日に合わせツアーで訪れた３１名の横浜の作家による作品制作における解説などがあった。横浜の作家である品川成明実行委員長は「横浜はとにかく個性が豊かで似たような作品が少ない。奄美・横浜，両方のよさを楽しく鑑賞してほしい。」と話し，来場者は更に作品への理解を深めた。

横浜からの出品者の多くが開催に併せて来島することにより，人と人との交流も図ることができ，また，奄美大島の方々にとっては島外で創作活動する作家の様々な表現を味わえるまたとない機会となった。

来場者からは「絵画によって一瞬何処かへ連れて行ってもらった様に思いました。」「心を動かされる作品を数点見つけました。自分も昔を思い出し，描きたくなってきました。」などの感想があり，多くの方に楽しんでいただけた展覧会となった。

２　県美展奄美関連作家展

期間：平成３０年６月１０日（日）～７月１日（日）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：２，６２０名

内容：　第６５回記念県美展において入選，入賞した奄美関連作家の作品を，洋画１７点，デザイン１点，工芸１点，彫刻２点，写真１８点，ハートフル２点，合計４１点を展示し，島内外の美術愛好家に紹介するとともに，奄美群島の芸術発展に寄与することを目的に開催した。

６月１０日のフロアトークでは，鹿児島県美術協会会員の稲光政氏と久保井博彦氏による作品解説と，出品した作家数名が自らの作品について紹介を行った。

今回の展示では，奄美群島から出品し，県美展賞や県美術協会賞，南日本新聞社賞をはじめ，奨励賞を受賞した作品に加えて田中一村記念美術館賞やハートフル賞の作家の作品も展示した。

来館者からは「皆様の作品の一つ一つがとてもすばらしいものでした。奄美の伝統や自然が見事に描かれ，写し出されていました。」「写真も絵画もとても素晴らしく力をもらいました。それぞれの感情の豊かさに自分も刺激されました。」等多くの感想を得た。

３　田中一村生誕 110 年記念スケッチコンクール作品展

期間：平成３０年９月９日（日）～９月２５日（火）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：２，４５８名

内容：　奄美群島内７２校の小・中学生を対象に奄美の自然や生活，行事などをテーマにスケッチ作品を募集し，８０３点の作品の応募のうち入選，入賞した３６２点を展示した。学校での学びを活かしながら，奄美の自然やそれぞれの体験，地域への思いなど，個性豊かに表現した作品が多かった。

９月２２日（土）午後２時から開催した授賞式には，受賞した児童生徒９名とその家族や関係者が参加し，受賞者らは嬉しそうに賞状と記念品を受けとった。

来館者からは「どの作品も大変素晴らしいものばかりでした。娘のこれからの図画作品への参考になりました。」「低学年組が自由な発想で伸び伸びとスケッチしている様子を思い浮かべながら楽しく拝見いたしました。」「どの作品ものびのび表現が豊かで子ども達の素直さ，明るさ，奄美らしさが感じられ楽しませていただきました。」などの感想を得た。

４　田中一村生誕１１０年記念　奄美を描く美術展（第１７回）

（１）本展

期間：平成３０年１０月２１日（日）～１１月１８日（日）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：５，３０４名

内容：　奄美を描く美術展は，全国の美術を愛好する方々が奄美を訪れ，奄美の風物や文化に接し，作品を発表する機会を提供するとともに，奄美の文化振興，観光の発展に寄与することを目的に開催している。

田中一村生誕１１０年の年，第１７回目となった今回は，全国から９８点（油彩，水彩，アクリル，工芸，ミクストメディアなど）が寄せられ，審査を経て，入賞１２点，入選５０点の計６２点を展示した。

審査員長　西　健吉氏（画家 公益社団法人二科会理事）は「奄美らしさ，自然を中心として生活や風景を含めてよくとらえて描かれている作品が多かった。奄美の特徴的なモチーフを生かしながら，対象のとらえ方や画面構成，色彩の工夫されたもの，ユニークなものや幻想的な表現など，多様で魅力的な作品がみられた。表現方法としては，油彩画，水彩画が多くを占めるものの，日本画や様々な工芸作品も寄せられており，幅広いジャンルによる表現は，奄美をテーマとした新しい表現の可能性を感じさせるものであった。本展のよりよい発展の為に，表面的に奄美を表現するのではなく，出品者の多くがもう一歩奄美の中に入り込み，奄美の自然と人々とのかかわりを体感し，より深く奄美をとらえ，さらに魅力的な作品の出品を期待しています。」と総評した。

来館者からは「奄美の美しさがどの作品にも出ていました。」「切り絵，七宝，タイルなどの作品もあり面白かったです。」「この美術展のテーマが奄美の自然と言うことで，奄美を見つめることに繋がる良い企画だと思います。」などの感想や意見を得た。

（２）巡回展

期間：平成３０年１２月１日（土）～１２月９日（日）

場所：鹿児島市立美術館　講堂（Ｂ１）

期間中の入場者数：約９００名

内容：　奄美を描く美術展の巡回展は平成２２年からスタートし，通常奄美群島内を巡回している。９回目となる今回は，田中一村生誕１１０年記念展として鹿児島

県内のより多くの方に本展を知っていただくために鹿児島市立美術館で開催した。本展でも展示をした入賞１２点，入選１４点及びこれまで当美術展に関わってこれた方々からの賛助作品５点の計３１点を展示した。

また，展示できなかった入選作品３６点についてはパネルで掲示を行った。

来館者からは「どれも迫力があって素敵でした。奄美と沖永良部に旅行したときのことを思い出しました。」「自分では描くことは苦手ですが，作品を鑑賞させてもらって心が洗われました。」「奄美の特徴を捉えて描かれていて本当に良かったと思いました。」などの感想や意見を得た。

作家の方々の展示作業や広報への協力により，素晴らしい展示会となった。

（３）入選・入賞作品

奄美を描く美術展大賞

「帰還」

F15　日本画　上田　泰徳（東京都）

海亀を題材とした作品で、右奥の小魚、岩の配置など工夫された構図が動きのある画面構成となっている。日本画特有の質感を生かしながら、海中を思わせる色調が心地よく伝わり、海の生命力を感じる。

田中一村記念美術館賞

「通り雨」

F15　油彩　平野　良光（徳之島町）

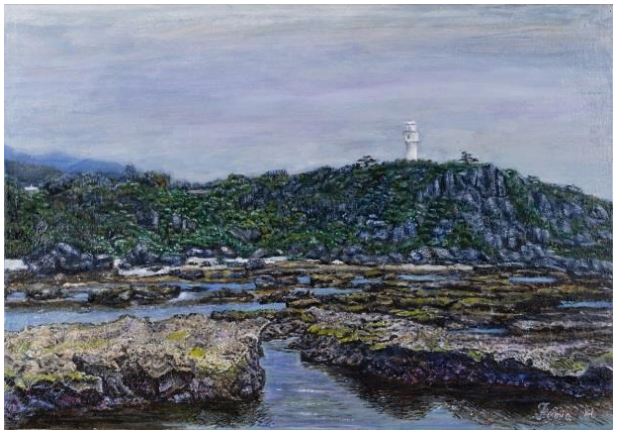
ガジュマルを中心としながら、海中のイメージが重なり、独自の世界観がつくりあげられている。緻密な描写、画面構成によって樹木の大きさや不思議なエネルギーを感じさせる作品である。

優秀賞

「金作原」

F12　水彩　丸山　良二郎（鹿児島市）

奄美特有のしっとりとした森の空気感がよく描かれている。心地よいトーンの中にルリカケスがしっかりと描き出されており、奄美の森に息づいている感じがよく表現された作品である。



優秀賞

「干潮（天城町与名間）」

M15　油彩　寛　文雄（伊仙町）

横長の画面に海辺から丘の上の灯台が描かれている作品は、画面手前の海と岩が丁寧に描写されており、岩の質感や水の表現が優れた作品である。

優秀賞

「ダチュラ」

P12　漆（箔絵）　矢﨑　朱実（愛知県）

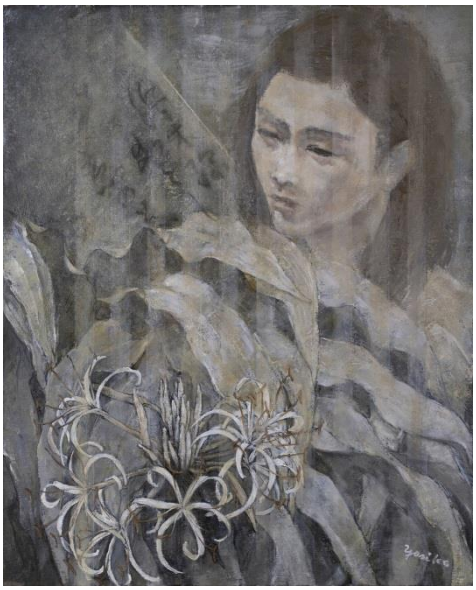
シンプルな画面構成ながらも色面と線の扱いに神経が行き届いている。素材のもつ独特の色調も相まって、上質な感じが伝わってくる作品である。

優秀賞

「流転」

F15　日本画　中村　哲郎（奄美市）

色彩豊かな珊瑚と海をバランスよく構成している。緻密な描写と色彩によって水の動きや透明感が表現されている魅力的な作品である。



優秀賞

「浜木綿随想－どこか遠くへ－」

F15　油彩　平　芳子（奄美市）

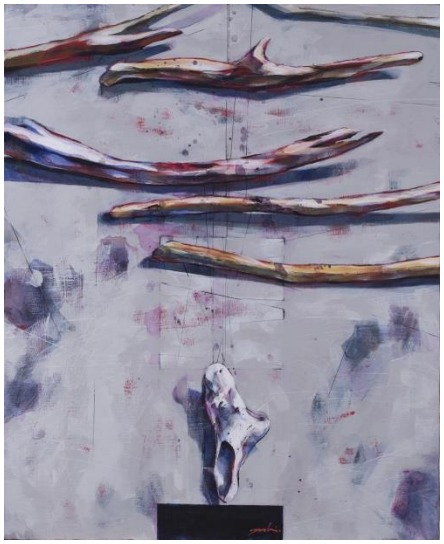
植物と人物の描写もしっかりしており、描かれたものの関係性や雰囲気がうまく表現されている。縦の線の表現に現代性も感じる作品である。

佳作・奄美の海賞

「Chan」

F15　油彩　田河　美紀子（奄美市）

色調もよく、月の光に照らされて海辺で休んでいる老人の自然なポーズや表情から奄美らしい雰囲気が伝わってくる作品である。



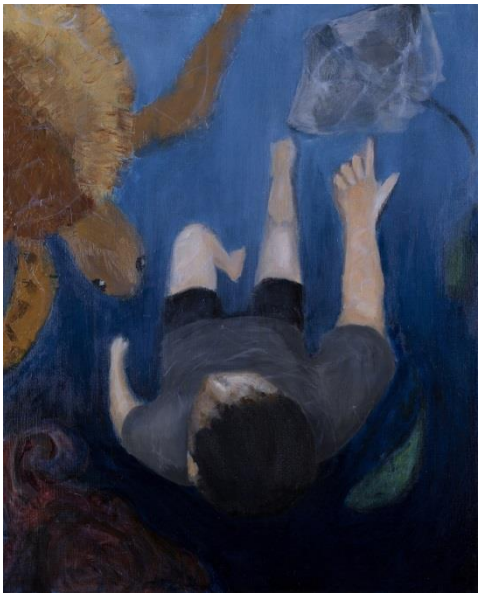
佳作・奄美の空賞

「海の声」

F15　アクリル　吉村　英彦（奄美市）

対象物が、緻密に描かれており、考え抜かれた画面構成や色調、シャープな線による表現によって独自の奄美が描かれた作品である。

佳作・奄美の杜賞
「(蓬莱竹のある）野立茶会」
S15　日本画　重村　敏光（奄美市）
画面からは繊細さと力強さが感じられる。モノクロと一部色を差し込んでおり、独特の筆触が魅力となっている作品である。



ヤング賞
「Marine friends」
F15　油彩　河田　夏歩（喜界町）
亀やエイとたわむれる少年の姿を、上から下を見る構図で描かれており、視点のおもしろさや新鮮さを感じる。若者らしい魅力を感じる作品である。

シルバー賞
「時代（とき）を重ねて」
F15　油彩　中野　長子（奄美市）
緻密な筆触で力強く描かれた作品からは、樹木と対話しながら描いている作者の姿勢が伝わってくるようである。

【審査総評】
奄美らしさ、自然を中心として生活や風景を含めてよくとらえて描かれている作品が多かった。奄美の特徴的なモチーフを生かしながら、対象のとらえ方や画面構成、色彩の工夫されたもの、ユニークなものや幻想的な表現など、多様で魅力的な作品がみられた。
表現方法としては、油彩画、水彩画が多くを占めるものの、日本画や様々な工芸作品も寄せられており、幅広いジャンルによる表現は、奄美をテーマとした新しい表現の可能性を感じさせるものであった。
本展のよりよい発展のために、表面的に奄美を表現するのではなく、出品者の多くがもう一歩奄美の中に入り込み、奄美の自然と人々とのかかわりを体感し、より深く奄美をとらえ、さらに魅力的な作品の出品を期待しています。
審査員長　西　健吉（公益社団法人二科会理事）

５　その他企画展

（１）龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展

期間：平成３０年１１月２５日（日）～１２月９日（日）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：２，５００名

内容：　児童･生徒の創作活動への興味･関心･意欲を高め，美術館を身近に感じてもらうとともに，保護者や地域住民に学校の学習内容や児童・生徒の様子を理解していただき，指導内容等についての情報交換の場となることを目的に，龍郷町立の小学校７校と中学校３校の児童・生徒が授業で制作した絵画・立体などの作品を展示した。

　多くの方が来館し，学校での指導，子どもたちの豊かな発想について語り合う姿がみられた。来館者から「子どもたちのありのままの表現を大切にしているところがとても素敵だなと思いました。」「この年代だからこそ感じるものを，風土や生活習慣を通して伝えられる場があって良いなと思いました。」「色々な作品があったから楽しかった。僕も真似したいです。」「とても色が綺麗で丁寧に想像力を膨らまして描かれていて，子どものたちの心がとても豊かに育まれていることが伝わりました。」などの感想を得た。

（２）田中一村生誕１１０年記念 田中一村を魅了した奄美フォトコンテスト及び作品展

期間：平成３０年９月３０日（日）～平成３１年１月１５日（火）

場所：田中一村記念美術館　回廊

期間中の入館者数：１６，３１４名

内容：　田中一村生誕１１０年を記念し，奄美と出合い，奄美に暮らし，奄美の自然を見つめ，奄美で独自の美の世界を拓いた日本画家田中一村を魅了した奄美の風土や自然，文化をテーマとしたフォトコンテストを開催した。

　本コンテストでは，（社）日本写真家協会会員の浜田太氏を審査員に招き，プリント部門１４３点，インスタグラム５６５点の応募の中から，プリント部門最優秀賞１点，優秀賞５点，インスタグラム部門最優秀賞１点，優秀賞３点が選ばれた。

　入賞者の作品は無料スペースの回廊にて展示し，多くの来館者が足を止め見入る姿が見られた。

授賞者は以下のとおり（敬称略）

【プリント部門】

○　最優秀賞　　福山　由美子

○　優 秀 賞　　稲　光政，吉行　秀和，田畑　より子，
里村　強志，米澤　恵美

【インスタグラム部門】（アカウント名にて記載）

○　最優秀賞　　sin8876ss

○　優 秀 賞　　cocone1001，corocorone，matsudakazuyo

６　創作体験教室ほか

（１）創作体験教室　楽しい絵画教室「奄美を描こう」

日時：平成３０年５月１３日（日）１０：００～１６：００

場所：レクチャールーム　　参加者数：８名

内容：　当美術館初代学芸専門員で，現在川辺高等学校で非常勤講師として勤務している西村康博氏を講師に招き，日本画の創作体験教室を開催した。

参加者は墨や日本画用の絵具を使い，季節の植物や貝殻をテーマにそれぞれの作品制作に挑戦した。講座では日本画の特徴や制作の手順を説明したあと，参加者が植物や貝殻などの題材を決め，木炭であたりをとる作業（線を描き，大まかな位置決めをする下書き作業）を行った。その後，墨で下描きをし，日本画用の絵具を使って作品を作成した。途中，講師が参加者の作品を見てまわり，構図や形のとらえ方，彩色についてアドバイスを行った。参加者の多くがそれを参考に作品を完成させた。最後に，完成した作品に講師が講評を行い，互いの作品を鑑賞し合った。講師からは「もっと水を加えると発色が良くなる。」「葉脈の中心に向かって筆を運ぶと良い。」等のアドバイスがあった。

参加者は「昔美大に行きたかったが断念した経緯がある。再び絵を学び，筆をとることが出来て楽しかった。」「日本画を学ぶ機会はなかなかないので楽しかった。ツツジの葉っぱを描くときの色の合わせ方など勉強になった。」等の感想を得た。参加者全員が熱心に創作活動に取り組み，今後も時間を見つけて描いてみたい，次回も是非参加したい等の声も聞かれた。

（２）夏休み親子「染め・織り体験」

日時：平成３０年８月２５日（土）　１０：００～１５：００

場所：レクチャールーム，屋外管理棟　参加者数：３４名

内容：　奄美の伝統工芸である大島紬の染めや織りの工程について，仕組みを理解したり楽しさを味わったりすることを目的に，奄美市笠利町で「工房しまむたび」を運営する植田正輝氏を講師に招いて「染め・織り体験」を行った。

参加者は，まず始めに染めについて基本的なことを学んだ後，しぼり染めする為のハンカチを思い思いの模様になるよう考えながら糸で縛り，その後，屋外管理棟に移動して織り用の綿糸とハンカチを５色の草木染めの液から好きな色に浸してから乾燥させた。

１色のみで染め上げる子どももいれば，５色全てを部分毎に使い分けグラデーションを作り上げる子どももおり，親子で染め方を楽しそうに話し合う姿も見られた。染色用としてタオルやトートバッグなどを持ち込んだ家族もおり，Ｔシャツを親子それぞれで染め上げた父親は，「子どもの方が染め方が上手だった。」と楽しそうに話していた。

次に，講師が事前に準備した段ボール製の織り機を使って，糸わたしの方法を学んだ。はじめは慣れない作業で時間のかかる場面も見られたが，参加者は講師の説明を聞きながら次第に上手に織れるようになっていった。また，保護者に協力してもらいながら織り進めるうちに上達し，色を変えるなど工夫を加えるようになっていった。会場からは，コースターや小銭入れに挑戦したいという声も聞かれた。制作時間が終了してからは，それぞれ作った道具一式を持ち帰り，家で続きを作成することとなった。

参加者からは「難しかったけれど，色んな色の糸を入れられて楽しかった。」「家に持ち帰って完成させたい。」等の感想を得た。

染めや織りの仕組みを体験しながら自分なりの工夫をすることができ，奄美に伝わる伝統工芸の奥深さに触れてもらう機会となった。

（３）田中一村作品鑑賞会

日時：平成３０年９月２日（日）１０：００～１１：４５

場所：奄美の郷レクチャールーム　田中一村記念美術館

参加者数：２１名

内容：　奄美の郷レクチャールームにおいて，当館学芸専門員を講師として「田中一村作品鑑賞会」を開催した。

奄美に魅せられ，奄美の自然を描き，日本画の新境地を拓いた田中一村について，その生き方や作品の基本的なこと（題材や構図，技法などの特徴等）への理解を深め，より深く田中一村の作品を味わえるようになることを目的として実施した。

参加者は，レクチャールームにてスライドショーを見ながら熱心にメモをとるなどして，田中一村についての知識を深めた。その後，田中一村記念美術館に場所を移し，当館学芸専門員による解説を交えた鑑賞会を行った。参加者は，絵を丹念に観て質問をしながら，一村の生き方や作品について理解を深めた。鑑賞会終了後には，参加者同士で話し合う姿や再び展示室に向かう姿が見られた。

（４）子ども美術館バックヤードツアー＆鑑賞会

日時：平成３０年１１月３日（土･祝）１０：００～１１：２０

場所：企画展示室

参加者数：７名

内容：　文化の日に合わせて，小・中学生とその保護者を対象とした「子ども美術館バックヤードツアー＆鑑賞会」を開催した。本プログラムは，「美術館の役割について」「美術館の施設見学」「田中一村さん作品鑑賞」の３部構成で開催した。

第１部では，学芸専門員より，一般的な美術館の役割及び田中一村美術館の役割についての説明を行った。

第２部の施設見学では，学芸員室，荷解庫，収蔵庫前，機械室，電気室など，普段は見学することのできないエリアを見学して回り，美術館を運営するために必要な様々な施設の説明を行った。

第３部の田中一村さん作品鑑賞では，作品を鑑賞する前に，田中一村に関する子ども向けの基本説明を行った。その後，東京，千葉，奄美大島時代の作品を展示している展示室内で，参加者それぞれの見方，感じ

方を基にして，作品について語っていただいた。

参加者の感想では，「作品が厳重に保管されていることに驚いた。」「作品保護のため火を使わない，火を置いていないことに驚いた」「見るだけでは分からない絵のエピソードを聞けたことが良かった」などの感想が聞かれた。

（５）創作体験教室　人物画講座

日時：平成３１年３月２３日（土），２４日（日）
いずれも１０：００～１６：００

場所：企画展示室　　参加者数：２３日　１３名，２４日　１３名

内容：　西健吉先生（公益社団法人二科会理事）を講師に，創作体験教室「人物画講座」を開催した。モデルは今回が初めてとなる佐野春香さんに２日間依頼した。

１日目は，具体的な例として，西先生の作品を元に画面のレイアウトなどについて解説を受けた後，固定ポーズを描き，一点透視や二点透視についての図法の説明を受けた。２日目は，１日目とは異なる固定ポーズを３ポーズ描き上げるという形式で行った。

参加者はモデルの特徴を捉え，水彩や鉛筆等で人物画の制作に取り組んだ。特に２日目には，参加者の多くが積極的に西先生から絵に対する助言や説明を受け，それぞれが個性あふれる作品を制作した。

両日ともに最後には，制作した作品一点一点について西先生が講評を行い，互いの作品を鑑賞した。今回は１３人が参加し，西先生からの説明に熱心に耳を傾け，人物画の制作を楽しんでいた。

参加者からは「西先生から直接学べる貴重な機会なので毎年楽しみにしている。是非今後も開催してほしい。」「島でなかなかモデルを描ける機会はないのでしっかり勉強したい。」等の感想を得た。

第５　田中一村記念美術館　特別企画展

１　第Ⅰ期　生誕１１０年　奄美への路Ⅰ　田中一村　展

期間：平成３０年３月２３日（金）～６月１９日（火）

（１）展示

場所：田中一村記念美術館　第１～３展示室，特別展示室

期間中の入館者数：８，３０４名

内容：　本展は，奄美と出合い，奄美に暮らし，奄美の自然や文化を見つめ，奄美で独自の美の世界を拓いた田中一村の生誕１１０年の節目の年に田中一村記念美術館所蔵作品を中心に全３期で開催する特別企画展の第Ⅰ期。

第Ⅰ期の「奄美への路Ⅰ　田中一村　展」は，田中一村の幼少から生涯の最後を飾る絵を描くために訪れた奄美で亡くなるまでの画業を約１１０点の作品とともに紹介した。

サブタイトルに奄美への路とある本展では，特に千葉時代の作品群をある程度時代ごとに展示することで一村が奄美で独自の美の世界を生み出すまでの過程を体感できる展示構成とした。

また，会期中は関連イベントとして長谷川祐子氏と宮崎緑館長の特別講演・対談や，当美術館学芸員によるギャラリートークを行い，来館者は田中一村についての理解を更に深めた。

来館者からは「テレビや図録等で以前から作品は見知っていましたが，初期の頃の物を間近で見たのは初めてで繊細な描写に感動しました。まるで植物や鳥たちの声が聞こえて来るかのようだった。」「やはり晩年の奄美での作品にとても心惹かれます。」などの感想を得た。

（２）学芸員によるギャラリートーク

日時：平成３０年４月２９日（日），５月２０日（日），
６月１７日（日）各日１５：００～１６：００

場所：田中一村記念美術館　　会期中の参加者：８名

内容：　田中一村展の関連イベントとして，当美術館学芸員によるギャラリートークを第Ⅰ期の会期中毎月１回ずつ，計３回行った。

美術館の概要説明から始まり，第１～３展示室特別展示室に展示されている田中一村の東京・千葉・奄美時代のそれぞれの作品について解説を行った。

参加者は絵を丹念に観て質問し，また，参加者同士で話し合い相互に情報を共有する姿も見られ，更に一

村の作品や生き方について理解を深めた。

参加者は島内在住者のみに限らず「このギャラリートークに参加するために旅行の予定を組んで来た。」という観光客もおり，「自分だけで観ていたときには分からないこともあったので非常に貴重な機会だった。」との感想も得た。

（３）田中一村生誕１１０年記念　長谷川祐子氏×宮崎緑館長　特別講演・対談

期間：平成３０年６月１０日（日）１３：００～１４：００

場所：奄美の郷　レクチャールーム　　参加者数：６４名

内容：　田中一村生誕１１０年を記念して，「深みへ－日本の美意識を求めて－」展のキュレーター，長谷川 祐子氏をお招きし，展覧会の趣旨や展覧会における一村作品の役割，専門的見地からみた一村作品の魅力などの講演や当館館長　宮崎緑との対談を実施した。

講演の中で長谷川氏は，同展全体の趣旨や，会場の詳細，展示方法などについて話した後，「（一村の絵画は）対象の抽象化を行うことで，生命のエネルギーの本質を捉えている。」とその魅力を話した。

宮崎館長から「一村の絵画は世界に通用するか。」という質問に対し，長谷川氏は「専門家には『実物を見るまで分からない』とも言われるが，一方で，日本画の様式からの転換，抽象さと繊細さの両方を持ち合わせているという評価はもらっている。」と回答。また，「一村の絵は本人が持っていた日本画の様式と，奄美が“混血”となってできたもの。奄美だったから生まれた。」と一村にとっての奄美の重要性も語った。

講演の最後には質疑応答があり，参加者から「一村の作品にはダヴィンチの影響を受けているところがあると思うがどうか。」という質問に対し，長谷川氏が「一村もダヴィンチも対象をとことん調べており，自然の摂理を見た目だけではなく，どう生成し終わっていくのかを理解しようとしていた。」，「ひとつの生を観察する目の鋭さ，客観性等について素晴らしい御指摘をいただいたと思う。」と回答するなど，一村に興味があり参加された観光客の方や，これまでも一村を大切にしてきた地域の方々にとっても田中一村への理解をより深める講演となった。

２　第Ⅱ期　生誕１１０年　奄美への路Ⅱ　田中一村　展

期間：平成３０年６月２１日（木）～９月２６日（水）

（１）展示

場所：田中一村記念美術館　第１～３展示室，特別展示室

期間中の入館者数：１０，５３５名

内容：　本展は，奄美と出合い，奄美に暮らし，奄美の自然や文化を見つめ，奄美で独自の美の世界を拓いた田中一村の生誕１１０年という節目の年に田中一村記念美術館所蔵作品を中心に全３期で開催する特別企画展の第Ⅱ期。

第Ⅱ期の「奄美への路Ⅱ　田中一村　展」は，田中一村の幼少から生涯の最後を飾る絵を描くために訪れた奄美で亡くなるまでの画業を約１１０点の作品とともに紹介した。

サブタイトルに奄美への路とある本展では，千葉時代の作品を多く展示することで，一村が奄美で独自の美の世界を生み出すまでの過程を体感できる展示構成とした。また，第Ⅱ期の会期中に開催されたジャポニスム２０１８の公式企画のひとつである「深みへ―日本の美意識を求めて―」展において，パリのロスチャイルド館で展示された奄美時代の作品の複製画を展示するスペースを設けた。

さらに，会期中は当美術館学芸員によるギャラリートークを行い，来館者は田中一村についての理解を更に深めた。

来館者からは「一村さんの作品は描く対象物の質感や本質，匂いまでも感じる絵だと思いました。」「想いがこもった色づかいがとても好きです。一村さんの一生をかけたその信念が絵を通して心に訴えかけてきました。」などの感想を得た。

３　第Ⅲ期　奄美に魅せられた日本画家　田中一村　展

期間：平成３０年９月２９日（土）～平成３１年１月１５日（火）

（１）展示

場所：田中一村記念美術館　第１～３展示室，特別展示室

期間中の入館者数：１２，４３３名

内容：　本展は，奄美と出合い，奄美に暮らし，奄美の自然や文化を見つめ，奄美で独自の美の世界を拓いた田中一村の生誕１１０年という節目の年に，田中一村記念

美術館所蔵作品を中心に全３期で開催する特別企画展の第Ⅲ期。

今回は，東京，千葉時代の作品とともに，フランス・パリで開催されたジャポニスム２０１８「深みへ－日本の美意識を求めて－」展（以下「深みへ」展という。）において，海外初公開した田中一村作品を始め，田中一村が奄美を訪れてからの１９年間に生み出した作品群を大規模に展観することで，奄美で日本画の新境地を拓いた田中一村の画業と田中一村を魅了した奄美をより多くの方が堪能できるような展覧会となった。

会期中は，毎月，当美術館学芸員によるギャラリートークの実施や，一村を魅了した奄美の風土や自然，文化をテーマにしたフォトコンテストの入賞作品の展示，「深みへ」展で一村作品の初公開に併せて制作された映像「独客」を手がけた映像作家・東加奈子氏，同じく「深みへ」展においてキュレーターを務められた長谷川 祐子氏らによる当美術館館長 宮崎緑との対談・講演会を関連イベントとして開催した。

来館者からは「日本画の画家でこれだけたくさんの作品を一挙に見られる場所は少ないので，これからも続けていただきたいです。」，「花，鳥の絵の優しさや綺麗さ，心がとても温かくなり，ずっと鳥肌が立って涙が出てきました。生誕 110 年の特別な展示の時に来られて本当に良かったです。」などの感想を得た。

（２）田中一村生誕１１０年記念　東 加奈子 氏×宮崎　緑　特別講演・対談

日時：平成３０年１２月９日（日）１１：００～１２：００

場所：特別展示室　　参加者数：２２名

内容：　田中一村生誕１１０年を記念して，映像作家・東 加奈子 氏と当美術館館長 宮崎緑が対談する「田中一村生誕 110 年記念特別対談・講演会」を特別展示室で行った。二人は来場者を前に，フランス・パリのジャポニズム展出展の映像を通して，一村が見つめた奄美を語り合った。

今夏，フランス・パリであったジャポニズム２０１８の公式企画美術展「深みへ―日本の美を求めて」に

おいて一村作品は海外で初公開され，奄美大島との関係性や作品の世界観を感覚的に捉えられるよう映像と共に展示された。

映像の制作は，東氏と，キュレーター・黒沢 聖覇 氏，サウンドアーティスト・梅沢 英樹 氏のアートユニットが行った。茶の湯の言葉で客が自分一人であることを表す「独客（どっきゃく）」をタイトルに，孤独な異邦人・一村と奄美の関係性を映像化した。

東氏は，一村の描く絵を「灰色」と捉え，映像制作の意図を細かに説明した。所々，青写真映像を挿入したことについては「写真は光で印画紙に焼き付けるが，一村の絵も自分の光を通して奄美を焼き付けたはず。」と，独自の解釈を展開した。

また，東氏は生涯をかけて一村を支えた姉・喜美子の死を〝転機〟と捉え，「そこから絵が，より深く中に入った。小さな小宇宙が成立した。」と解説した。一村を感覚的につかむ上では，重要なキーワードに据えていたことなどを明かし，田中一村への理解をより深める講演となった。

（３）田中一村生誕１１０年記念　長谷川祐子氏×宮崎緑館長　特別対談・講演会

期間：平成３１年１月１３日（日）１０：３０～１２：２０

場所：特別展示室　　参加者数：６０名

内容：　田中一村生誕１１０年を記念して，フランス・パリで開催されているジャポニスム２０１８の公式企画のひとつ「深みへ―日本の美意識を求めて―」展（以下「深みへ」展という。）において，キュレーターを務めた 長谷川祐子氏と当美術館館長 宮崎緑が対談する「田中一村生誕１１０年記念特別対談・講演会」を特別展示室で行った。２人は来場者を前に，「深みへ」展や田中一村作品に対する反響等について語った。

長谷川氏は，「深みへ」展で，大家・ゴーギャンと隣り合わせの部屋に一村を展示した。表現の精神性はゴーギャンに近いとした上で対比として，「日本人が鍛えられた感覚，生と死。絶えず終わりがある美を海外に伝えたかった。」と展示意図を説明した。また，「深みへ」展を振り返り，「田中一村の絵を展示したことにより南の島の美学，新しい表現のあり方を示せたのでは。」と一村の功績を称えた。

海外の評価についてはクリスティーヌ・ビュシ・グリュックスマン寄稿の一村を形容する言葉「バロック・ジャングル」を解説しつつ，海外でも好意的な評価であったことを報告した。

館長から今後の抱負を尋ねられると，奄美と共通性の多いラテン系の国での展覧を希望しつつ，「一村で新しい出会いを作っていきたい。」と述べた。

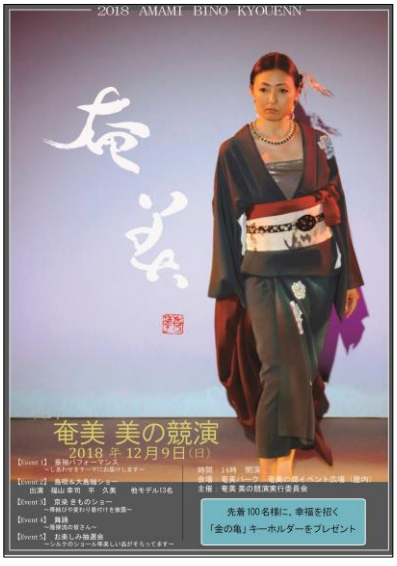
6　各種イベント・美術館企画展ポスター等

1　季節感(年中行事)を取り入れたイベント

2　奄美の郷ライブステージ

3　文化講演会

4　わきゃステージ in パーク事業



５　その他自主事業及び共催事業

6　美術館

長沢秀之ドローイング＋奄美の人たちの文章
対話「私が生まれたとき」奄美編
平成30年3月25日(日)～4月15日(日)
田中一村記念美術館 企画展示室
9時～18時
フロアトーク

ふるさと、奄美に帰る
それは刻み込まれた記憶
国立療養所菊池恵楓園金陽会作品展
2018年
3月10日(土)～31日(土)
奄美文化センター
4月3日(火)～10日(火)
国立療養所奄美和光園
4月20日(金)～5月13日(日)
田中一村記念美術館
入場無料

Voices:
What's Going on in Our World?
4コマアート:
世界で今何が起こっているのか?
田中一村記念美術館企画展示室 2018.7.14～29
7.15 オープニングトーク＆ワークショップ
7.28 クロージングトーク

奄美人と彝人
海の民 山の民
Amami, Yi of chinese folk
Sea and mountain peoples photo exhibition
2018年8月3日(金)～27日(月) 田中一村記念美術館企画展示室
2018年9月7日(金)～17日(月) かしんアイ・ギャラリー

老いてますますGenki!
荒波老娘の手作り作品展
観覧無料
会期：平成30年12月23日(日)～平成31年1月14日(月)
時間：9:00～18:00
場所：田中一村記念美術館 企画展示室

新芸術協会 作家三人展 IN 奄美
2019. 1.27(日)～2.17(日)
9:00～18:00
2月6日(水)休館日
田中一村記念美術館 企画展示室 観覧無料
1月26日(土) 14:00～15:00 プレオープン 作家三人のライブトーク
15:30～17:30 オープニングパーティー
共催：田中一村記念美術館
後援：南海日日新聞/奄美新聞/新芸術協会

AMAMI × YOKOHAMA
奄美横浜交流 第2回 遊展
田中一村記念美術館 企画展示室
2019年2月24日(日)～3月10日(日)
午前9時～午後6時 入場無料
鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館ご案内
アートスペースイワブチ 2019年3月17日(日)～24日(日)

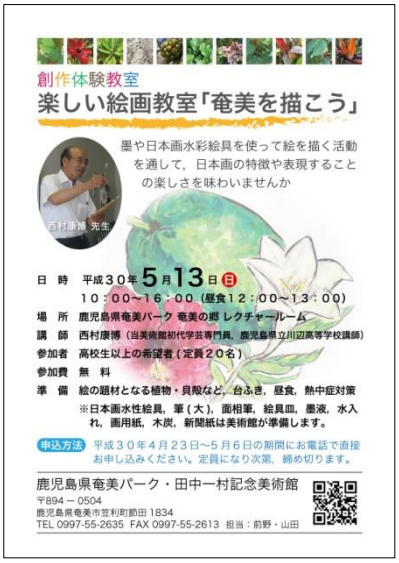
観覧無料
第65回記念 県美展 奄美関連作家展
絵画/写真/デザイン/工芸/彫刻
会期：2018. 6.10(日) ▶▶ 7.1(日)
会場：田中一村記念美術館企画展示室
関連イベント：フロアトーク：6.10(日)/14:30～
鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館

観覧無料
田中一村生誕 110 年記念
スケッチコンクール作品展
奄美群島内の小中学生が
奄美の自然や生活、行事等をテーマに
描いた力作の中から選ばれた作品による展覧会です。
子どもたちの表現をお楽しみください。
会期 平成30年9月9日(日)~9月25日(火)
※9月19日（水）は休館日
時間 9：00~18：00
※最終日は 16：00まで
場所 田中一村記念美術館企画展示室
※授賞式 平成30年9月22日(土) 14：00～ 企画展示室
鹿児島県奄美パーク
田中一村記念美術館
〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2635 FAX 0997-55-2613

公募
(第17回)
田中一村生誕110年記念
奄美を描く美術展
作品応募締切 平成30年10月7日(日)
奄美を描く美術展実行委員会事務局

龍郷町立小・中学校
図画工作・美術科
学習発表展
龍郷町の子どもたちが、図画工作・美術の時間に制作した作品を田中一村記念美術館に展示します。子どもたちの頑張りや感性を感じてください。
会期：平成30年11月25日(日)~12月9日(日)
※12月5日(水)は休館日
時間：9:00~18:00
※最終日は 16:00まで
場所：田中一村記念美術館 企画展示室
秋名小学校
龍郷小学校
赤徳小中学校
円小学校
戸口小学校
龍郷中学校
大勝小学校
龍南中学校
主催 田中一村記念美術館 後援 龍郷町教育委員会
[お問合せ] 田中一村記念美術館（鹿児島県奄美パーク内）
〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2635 FAX 0997-55-2613 http://amamipark.com/issor/

田中一村生誕１１０年記念
田中一村を魅了した
奄美フォトコンテスト
プリント部門
募集期間
2018年8月12日(日)~8月19日(日)
インスタグラム部門
募集期間
2018年3月1日(日)~8月19日(日)
田中一村生誕１１０年を記念し、田中一村を魅了した奄美の風土や自然、文化をテーマとした写真（プリント部門・インスタグラム部門）を募集します。
賞
応募方法
鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館
〒894-0504鹿児島県奄美市笠利町節田1834 TEL(0997)55-2635 FAX(0997)55-2613
http://www.amamipark.com/issor/


創作体験教室
楽しい絵画教室「奄美を描こう」
墨や日本画水彩絵具を使って絵を描く活動を通して、日本画の特徴や表現することの楽しさを味わいませんか
西村康博 先生
日 時 平成30年5月13日(日)
10：00~16：00（昼食12：00~13：00）
場 所 鹿児島県奄美パーク 奄美の郷 レクチャールーム
講 師 西村康博（当美術館初代学芸専門員、鹿児島県立川辺高等学校講師）
参加者 高校生以上の希望者（定員20名）
参加費 無 料
準 備 絵の題材となる植物・貝殻など、台ふき、昼食、熱中症対策
※日本画水性絵具、筆（大）、面相筆、絵具皿、墨液、水入れ、画用紙、木炭、新聞紙は美術館が準備します。
申込方法 平成30年4月23日~5月6日の期間にお電話で直接お申し込みください。定員になり次第、締め切ります。
鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館
〒894－0504
鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2635 FAX 0997-55-2613 担当：前野・山田

田中一村鑑賞会
今年生誕 110 年を迎える田中一村さん。生前の田中一村さんは、ほぼ無名の日本画家でした。そんな画家が、日本中で知られるようになるのは、奄美でその生涯を閉じてから数年後のことでした。奄美に魅せられ、奄美の自然を描き、日本画の新境地を拓いた田中一村さんの作品世界を、みなさんで一緒に鑑賞しませんか。
期日 平成30年9月2日(日)
時間 10時~11時30分
場所 奄美パーク
奄美の郷 レクチャールーム・田中一村記念美術館
定員 20人（小学4年生~大人）
※事前申込必要
お電話で美術館へ直接お申込みください。
※定員に達し次第、募集を締切ります。
参加料無料
もっと知りたい!! 田中一村
お申込・お問合せ先 田中一村記念美術館
鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2635 FAX 0997-55-2613 担当：前野・山田

子ども美術館
バックヤードツアー
&鑑賞会
美術館の役割や施設の機能、普段は見ることができない美術館の裏側を紹介します。また、田中一村さんの作品を参加者で対話をしながら鑑賞します。
期日 平成30年11月3日(土・祝)
時間 10時~11時20分
場所 田中一村記念美術館
定員 10家族程度 ※事前申込必要
受付期間 10月15日（月）~11月2日（金）
美術館に直接お電話でお申込みください。
参加料無料
【お問合わせ】
田中一村記念美術館
〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2635 FAX 0997-55-2613 http://amamipark.com/issor/

あなたも人物画を描いてみませんか
田中一村記念美術館 創作体験教室
人物画講座
内 容
人物クロッキーやデッサン、木彩や油彩による人物画の作品制作など
日 時
平成31年3月23日(土)・24日(日)
両日とも10：00~16：00
（昼食12：00~13：00）
場 所
田中一村記念美術館 企画展示室
対 象
高校生以上
定 員
18人（両日参加できる方）※要申込
参加料
無料
準 備
スケッチブック、鉛筆、F8号~F15号のキャンバスもしくは紙を貼ったパネル、鉛筆や木炭などの描画材、木彩画もしくは油彩画の道具、床を汚さないための敷物（新聞紙やレジャーシート）、着替え等の衣、昼食※イーゼル、カルトンは美術館で用意します。
指導者
西 健吉 先生
申込方法
3月2日（土）から受付を開始いたします。美術館に直接お電話にてお申し込みください。定員になり次第、締め切ります。
お問合せ・申込先
田中一村記念美術館
〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2635 FAX 0997-55-2613 担当：前野、山田

生誕110年 奄美への路 I・II
田中一村展
鹿児島県奄美パーク
田中一村記念美術館
第Ⅰ期
2018.3.23(金)~6.19(火)
休館日 4/4、4/18、5/16、6/6
第Ⅱ期
2018.6.21(木)~9.26(水)
休館日 7/4、7/18、9/5、9/19

田中一村作品パリへ
田中一村生誕 110 年の今年、フランス・パリで開催される日仏友好 160 周年記念事業「ジャポニスム 2018」の一環として「深みへ－日本の美意識を求めて－」展がオープニングとして開催されます。この展覧会は、日本の芸術文化に過去から現代まで流れる美意識をいくつかのキーワードで切り取り、そのテーマごとに古美術や現代美術を織り交ぜて展示する意欲的な試みによって構成された展覧会です。この展覧会に、奄美の自然を描き、独自の美の世界を生みだした田中一村作品が海外で初めて出品されます。
田中一村記念美術館では、田中一村生誕 110 年を記念して、「深みへ－日本の美意識を求めて－」展のキュレーター、長谷川 祐子氏をお招きし、展覧会の趣旨や展覧会における一村作品の役割、一村作品の魅力等の講演や当館館長の宮崎 緑との対談を実施します。
田中一村生誕 110 年記念 特別講演・対談
長谷川 祐子 × 宮崎 緑
開催日 2018 年 6月 10日（日） 入場無料
時 間 13時00分から14時00分
会 場 奄美パーク奄美の郷
申込方法 田中一村記念美術館へお電話でお申込みください。電話：0997－55－2635
（お問合せ先）
〒894－0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2635 FAX 0997-55-2613
鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館

生誕１１０年
奄美に魅せられた日本画家
田中一村展
2018.9.29 Sat
▼
2019.1.15 Tue
［休 館］ 毎週火曜日（10月9日は開館）
［観覧料］ 大人510（400）円/高大生360（280）円/小中学生250（200）円

第２弾 田中一村生誕 110 年記念
特別対談・講演会
フランス・パリで開催されているジャポニスム 2018 の公式企画の一つである美術展「深みへ－日本の美意識を求めて－」展（以下「深みへ」展）において、田中一村作品が海外初公開されました。（2018.8.21 終了）
田中一村記念美術館では、「田中一村生誕 110 年記念特別対談・講演会」第２弾の講師として、「深みへ」展において、画家田中一村と奄美との関係性や作品世界を「独客」という映像作品で表現・発表した作家の一人である東 加奈子 氏をお招きします。気鋭の映像作家の作品世界及び「独客」制作の過程で触れた田中一村や奄美について、お話をうかがう対談・講演会となります。みなさまのお越しをお待ちしています。
東 加奈子 氏（映像作家）× 宮崎 緑（鹿児島県奄美市立奄美博物館 館長）
期日：平成30年12月9日
時間：11：00～11：40
会場：田中一村記念美術館 特別展示室
参加料無料
定員 30人
要予約 お電話で鹿児島県奄美市立奄美博物館にお申込みください。定員に達し次第締め切ります
［お問合せ］田中一村記念美術館（鹿児島県奄美パーク内）
〒894－0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2635 FAX 0997-55-2613 http://amamipark.com/isson/

第３弾 田中一村生誕 110 年記念
特別対談・講演会
フランス・パリで開催されているジャポニスム 2018 の公式企画の一つ「深みへ－日本の美意識を求めて－」展（以下「深みへ」展）において、田中一村作品が海外初公開となりました。
田中一村記念美術館では、「特別対談・講演会」の第３弾として、「深みへ」展においてキュレーターを務められた長谷川 祐子氏をお招きし、パリでの「深みへ」展や田中一村作品に対する反響等についてお話しを伺う対談・講演会を開催いたします。国内外で活躍されている長谷川氏の話を伺える貴重な機会です。みなさまのお越しをお待ちしております。参加をご希望される方はお早めにお申し込みください。
長谷川 祐子 氏 × 宮崎 緑（鹿児島県奄美市立奄美博物館 館長）
期日：平成31年1月13日
時間：10：30～12：00
会場：田中一村記念美術館 特別展示室
参加料無料
定員 50人
要予約 お電話で鹿児島県奄美市立奄美博物館にお申込みください。定員に達し次第締め切ります
［お問合せ］田中一村記念美術館（鹿児島県奄美パーク内）
〒894－0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2635 FAX 0997-55-2613 http://amamipark.com/isson/

第７　奄美パーク応援隊について

（１）結成目的

　奄美パークの活動を支援し，魅力ある施設実現の一助とし，ひいては奄美群島の観光振興に寄与することを目的とする。

（２）隊員数

　４７名（平成３１年３月３１日現在）

（３）年間活動回数

　１５６回

（４）活動内容

　奄美パーク応援隊は，施設内のガイドを目的に平成１５年度に発足した。

　平成１８年度には，展示案内ガイド・手熟ガイド・園芸サポーター・一村サポーターと，４つの分科会を設けたが，それぞれの活動頻度が異なり分科会によっては，活動実績がない状況にあったため，再度，活動のあり方を見直した結果，平成２６年度より分科会を廃止し，展示案内・手熟（三味線やしまうた等）の披露・園芸活動・美術館活動・その他活動（奄美パークが企画したイベント，業務等への参加，園内の清掃）と，５つの活動内容で構成し，隊員はそれぞれ得意な分野や興味のある分野を中心に参加することとなった。

　隊員には登録証を発行し，ボランティア活動保険への加入と，原則，年に２回以上の活動を義務付けている。登録証は応援隊の活動時以外でも，提示することで奄美パークの有料ゾーンに入ることのできるフリーパスにもなっている。

　なお，事務局は月に一度，活動の予定や奄美パークの行事予定，活動報告などを掲載した「応援隊通信」を発行し，すべての隊員へ配付している。

（５）活動実績

今年度は，新規隊員が６名，昨年度から引き続き更新のあった隊員が４１名，計４７名の加入申し込みがあった。それぞれ園芸作業や六調三線など得意な分野や興味のあることに参加した。

手熟の披露は，隊員がそれぞれの都合で来園し，あしびの庭の茅葺民家周辺でシマ唄や三味線の弾き方，チヂンの叩き方などを来園者へ披露した。「勉強になった。」，「面白かった。」など好評を得ていた。

園芸作業は，月に１回の作業日を設け，２階テラスの花壇を中心に手入れを行った。すべての花壇を万遍なく手入れした。花壇に植えた花苗は，季節に合ったものを購入したり，隊員から頂いたりしたものであった。色とりどりの花々が咲き乱れた花壇では，来園者がカメラを片手に散策する様子がみられた。

そのほか，平成２３年度３月から有志による月２回の六調三線の練習も続いており，その成果を披露する機会となる団体客の見送りは高い評価を得ていた。団体客が隊員と一緒に踊ったり，カメラを構えたりする様子なども見られた。

鹿児島県奄美パーク

事業報告書

リ ー フ

第 17 号

2019年4月発行

編集・発行　奄美群島広域事務組合

鹿児島県 ■奄美の郷 ■田中一村記念美術館

奄美パーク

〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
Tel:0997-55-2333 Fax:0997-55-2612
HP http://www.amamipark.com/
BLOG http://ap129.amamin.jp/